

4K 対応サインエッジプレーヤー

USDP-R2000S

取扱説明書

2017 年 8 月 16 日

第 1.01 版

Copyright (C) 2016-2017 MEDIAEDGE Corporation

改訂履歴

版	FirmWare	年月日	改訂内容
1.0	2.2. x	2017/07/05	初版
1.0.1	2.2. x	2017/08/16	WEB 設定画面の一部変更

目次

I. はじめに.....	1
I-1. 本製品を使用される際の注意事項	2
■ 注意事項	3
■ 個人情報の取扱いについて	3
■ 商標について.....	3
■ 警告	4
I-2. ご使用前に.....	5
■ パッケージ内容の確認.....	5
■ 当社ホームページについて	5
■ ファームウェアのバージョンについて	5
I-3. 留意事項.....	6
■ 表記について.....	6
■ ご注意	6
■ 制限事項	6
■ 利用許諾について	7
II. USDP-R2000S について	8
II-1. 概要と特長.....	9
■ II-1-1. USDP-R2000S の概要	9
■ II-1-2. USDP-R2000S の特長	10
■ II-1-3. 再生可能なコンテンツ	11
II-2. 各部の名称と機能.....	13
■ II-2-1. USDP-R2000S 本体前面.....	13
■ II-2-2. USDP-R2000S 本体背面.....	14
機器の接続と動作確認.....	15
■ II-2-3. 機器の接続.....	15
■ II-2-4. 起動とシャットダウン.....	16
II-3. 初期設定.....	17
■ II-3-1. ネットワーク設定	17
■ II-3-2. 表示設定	19
III. ストリーミング再生	20
III-1. 概要	21
■ III-1-1. ストリーミング再生について	21
■ III-1-1. ストリーミング再生の状態確認	21
IV. チャンネルモード	23
IV-1. チャンネル再生	24

■ IV-1-1. チャンネルモードについて	24
IV-2. スケジュール再生.....	26
■ IV-2-1. スケジュール再生について.....	26
■ IV-2-2. DCM	26
■ IV-2-3. フィラー再生.....	26
■ IV-2-4. 設定	27
V. シリアル制御再生.....	28
V-1. シリアル制御モードについて.....	29
V-2. 設定.....	30
V-3. 接続.....	31
V-4. コンテンツの配置	32
V-5. シリアル制御モードの初期状態	33
V-6. 制御方法	34
V-7. 対応コマンド一覧	35
V-8. エラーコード一覧.....	39
VI. 機能・動作.....	40
VI-1. コンテンツの更新	41
■ VI-1-1. 更新について	41
■ VI-1-2. DCM との連携	41
■ VI-1-3. ファイル共有.....	43
■ VI-1-4. USB ストレージ経由のコンテンツ更新	44
■ VI-1-5. デバイスに直接書き込む	44
VI-2. ネットワーク	45
■ VI-2-1. 時刻設定 (NTP)	45
■ VI-2-2. UPnP.....	45
VI-3. その他.....	46
■ VI-3-1. リモートシリアル.....	46
■ VI-3-2. ログ	46
VII. Web コンソール.....	47
VII-1. アクセス方法.....	48
VII-2. 状態表示	49
■ VII-2-1. ステータス	50
■ VII-2-2. ログ.....	59
VII-3. 設定	61
■ VII-3-1. 設定について	61
■ VII-3-2. 基本設定.....	61
■ VII-3-3. ネットワーク.....	67
■ VII-3-4. チャンネルモード.....	73
■ VII-3-5. シリアル制御モード.....	74

■ VII-3-6. 再生	75
■ VII-3-7. シリアル	81
■ VII-3-8. ビデオ出力	84
VII-4. 機器管理	87
■ VII-4-1. ストレージ管理	87
■ VII-4-2. 再起動・シャットダウン	88
■ VII-4-3. 初期化	88
■ VII-4-4. 一括設定	88
■ VII-4-5. 日時設定	89
■ VII-4-6. 情報の取得	89
■ VII-4-7. ユーザー名・パスワード変更	90
VIII. Appendix	91
VIII-1. 更新制御スクリプト	92
■ VIII-1-1. 概要	92
■ VIII-1-2. 書式	92
■ VIII-1-3. 記述例	93
VIII-2. 無停電電源装置について	94
VIII-3. 仕様	95
■ VIII-3-1. 再生可能なコンテンツ	95
■ VIII-3-2. ハードウェア仕様	96
■ VIII-3-3. 外観、サイズ	97
■ VIII-3-4. コネクタピン配置	98

I. はじめに

この章では、USDP-R2000S のご使用やセットアップの前に確認していただきたい事項や、ご注意いただきたい事項について説明します。

I-1. 本製品を使用される際の注意事項

ここでは、本製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、メディアエッジ株式会社 カスタマーサポートまでお問い合わせください。

メディアエッジ株式会社

カスタマーサポート

TEL: 078-265-1552

FAX: 078-265-1550

(月曜～金曜 10:00～12:00、13:00～17:00

※土日祝および当社指定休日を除く)

⊘ 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。コードの上に重いものをのせたり、熱器具に近づけたりしないでください。また、コードを折り曲げたり、加工したりしないでください。AC アダプターを抜くときは、プラグ部分を持ってください。コードが傷んだら、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまで交換をご依頼ください。

⊘ 分解しない

ケースを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はお買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご依頼ください。

⊘ ほこりや湿気の多い場所で使用しない

ショートや発熱が起こり、火災や感電の原因となります。

⊘ 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、本体の電

源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

⊘ 雷が鳴り出したら使わない

本体や、プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⊘ ぬれた手で AC アダプターを触らない

ぬれた手で AC アダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

⊘ 直射日光の当たる場所に置かない

日光の当たる場所や熱器具のそばに置かないでください。火災や製品の故障の原因となります。

⊘ 煙が出た状態で使用しない

煙が出る、異臭がするなどの異常状態で使用しないでください。火災や製品の故障の原因となります。

異常が発生したら、本体の電源を切り、電源プラグを抜いて、煙が消えたのを確認してから、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

⊘ 製品が破損した状態で使用しない

本製品を落としたり、カバーを破損した状態のまま使用したりしないでください。火災や製品の故障の原因となります。製品が破損した場合は、本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

⚠ 不安定な場所に置かない

不安定な台の上や傾いたところに置かないでください。落下するおそれがあり、けがをしたり、製品の故障の原因となります。

電源コードや AV ケーブルは整理して配置してください。足にひっかけると、けがや製品の故障の原因となります。

⚠ お手入れの際は電源を切る

接続するときやお手入れの際は、電源コードを抜いてください。感電や製品の故障の原因となります。お手入れの際は、シンナーなどの揮発性の溶剤を使用しないでください。長期間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。

⚠ 付属の AC アダプター以外は使用しない

付属の AC アダプター以外の製品を使用しないでください。火災や製品の故障の原因となります。

⚠ 本体を布などで覆わない

風通しの悪い場所や布などで覆った状態で使用しないでください。通風孔がふさがれると内部に熱がこもって、火災や製品の故障の原因となります。

■ 注意事項

ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。

製品本来の使用目的及び、当社が推奨する使用環境以外での本製品の動作保証は、一切いたしかねます。

■ 個人情報の取扱について

当社では、お客様の個人情報は原則として下記の目的以外では使用いたしません。

- ご利用の当社製品のサポートの実施
当社製品の使用状況調査、製品改良、製品開発、サービス向上を目的としたアンケートの実施。

※ 調査結果につきましては、お客様の個人情報を含まない形で当社のビジネスパートナーに参考資料として提供することがあります。

- 銀行口座やクレジットカードの正当性、有効性の確認。
- ソフトウェアのバージョンアップや新製品の案内等の情報提供。
- 懸賞企画等で当選されたお客様への賞品の発送。

事前にお客様のご了承を得た上で、上記以外の目的で使用させていただく場合があります。

当社ではご記入いただいた情報を適切に管理し、特段の事情がない限りお客様の承諾なく第三者に開示・提供することはありません。

お客様の個人情報の取扱いに関するお問い合わせ、ご意見は <http://www.mediaedge.co.jp> までご連絡ください。

■ 商標について

- ① MEDIAEDGE は、メディアエッジ株式会社の登録商標です。
- ② HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- ③ Manufactured under license from Dolby Laboratories.
- ④ Dolby and the double-D symbol are trademarks of Dolby Laboratories.
- ⑤ Microsoft、Windows は米国マイクロソフト

MEDIAEDGE

ト・コーポレーションの登録商標です。

- ⑥ その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。

■ 警告

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターおよびテレビ画面に表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験

をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

■ 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

I-2. ご使用前に

■ パッケージ内容の確認

USDP-R2000S のパッケージの中に以下の付属品が入っていることを確認してください。

製品の梱包には万全を期しておりますが、万一不足しているものがありましたら、ご購入いただきました販売店もしくは下記カスタマーサポートまでご連絡ください。

メディアエッジ株式会社

カスタマーサポート

TEL: 078-265-1552

FAX: 078-265-1550

(月曜～金曜 10:00～12:00、13:00～17:00 ※土日祝および当社指定休日を除く)

USDP-R2000S 同梱物

- MEDIAEDGE USDP-R2000S 本体×1
(ケースマウントブラケット装着済み)
- AC アダプター×1
- マニュアルディスク×1
- 簡易説明書×1
- お客様情報登録案内×1
- 同梱物一覧シート×1

■ 当社ホームページについて

USDP-R2000S を始めとする当社の最新情報をホームページ(<http://www.mediaedge.co.jp>)にて発信しています。最新のドライバー、ユーティリティ、製品マニュアル、FAQなどを公開していますので、当社ホームページに是非アクセスいただきご活用ください。

■ ファームウェアのバージョンについて

本書では USDP-R2000S のファームウェアバージョン 2.2 での操作方法を説明しています。

I-3. 留意事項

■ 表記について

- 本書の説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラストおよび画面写真が異なる場合があります。

■ ご注意

- 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。

■ 制限事項

現行ファームウェアでの制限事項を示します。

- 初期設定などで使用するブラウザとして、Windows で動作する Microsoft Edge、Internet Explorer 11 (IE11)以降、Google Chrome、Mozilla Firefox をサポートしています。
上記以外の環境で使用了場合には一部もしくはすべての機能が正常に動作しない可能性があります。
- すべての USB ストレージで正常動作することを保証するものではありません。
- USB ストレージ内のコンテンツを再生中にこれらのドライブを抜くと内部的に異常な状態になることがあります。ドライブを抜く前に Web コンソールの[状態表示] > [ストレージ]タブで表示される、[安全な取り外し]ボタンをクリックしてから取り外してください。
- UPnP は IPv4 の環境でのみ動作し、IPv6 が有効であっても IPv6 で通信しません。
- すべての動画、オーディオ、HTML、静止画コンテンツで正常動作することを保証するものではありません。正常に表示、再生できることを確認の上、コンテンツをご使用ください。
- 動画のみを再生している場合と、静止画やテロップ、HTML と同時に使用する場合は動画の再生可能なビットレートなどの上限が異なります。
使用条件によって動作、再生の確認をお願いします。

■ 利用許諾について

本製品は、搭載するソフトウェアの一部に GNU 一般公衆利用許諾 (GNU General Public License、以下「GPL」と呼ぶ) または GNU 劣等一般公衆利用許諾 (GNU Lesser General Public License、以下「LGPL」と呼ぶ) に該当するフリーソフトウェアを利用しています。

GPL/LGPL 該当のソフトウェアのリスト、ソースコードの請求、および本件に関する質問は当社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

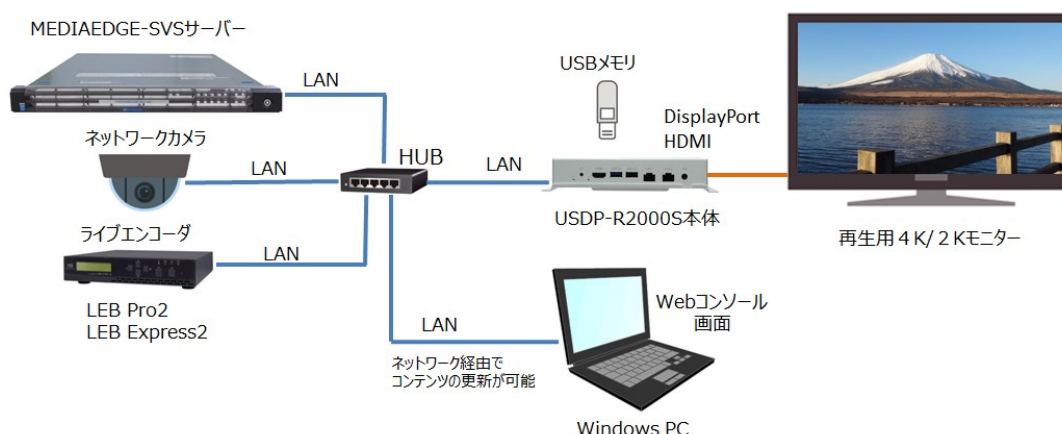
II. USDP-R2000S について

この章では、USDP-R2000S の概要や各部の機能について説明します。

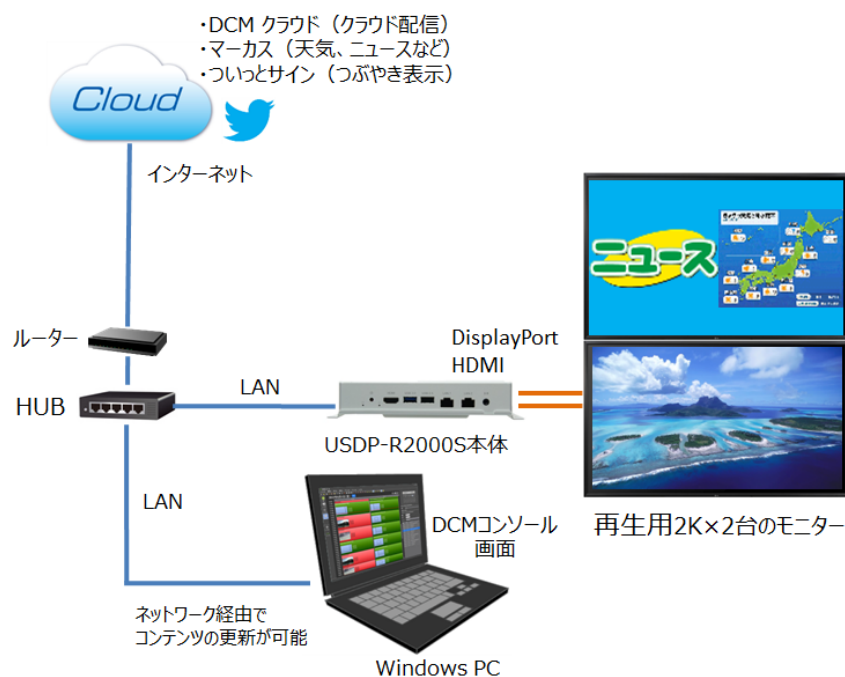
II-1. 概要と特長

■ II-1-1. USDP-R2000S の概要

本製品は本体に接続したストレージ(SSD、USB ストレージ)のコンテンツファイルやサーバー、ネットワークカメラ、ライブエンコーダーが配信する MPEG-2 トラストストリーム (MPEG-2 または H.264 でエンコードされたデータ) を再生するスーパーハイビジョン 4K プレイヤーです。コンテンツ更新はネットワークのほか USB ストレージによっても行えます。



また、DCM (Display Content Manager: 別売) を使うとスケジュール再生や動画、静止画、HTML、テロップを一つの画面にレイアウトしたプレイリスト再生が可能です。複数台の本製品のコンテンツ更新や状態監視を一括して管理することができます。制御、監視、コンテンツの更新などすべての機能がネットワークから行えます。弊社のクラウドサービスとも連携可能です。



■ II-1-2. USDP-R2000S の特長

- ローカルストレージに記録したデータとストリーミングの再生に対応。
- スケジュールによる自動再生に対応。
- スケジュール再生中に外部からの割込み再生が可能です。
- 様々なネットワーク機能に対応。
 - IPv4、IPv6 に対応。
 - 共有ファイルへのアクセス。
 - インターネット環境でコンテンツの更新、制御、監視などの操作が可能。
 - ローカルストレージでの再生ではネットワークがなくても運用可能。
- シームレスな再生切り替え（表示モードにより一部制約があります）。
- HTML5 に対応したブラウザ（Video タグには非対応）を搭載。
- 複数コンテンツのレイアウト再生に対応。
- USDP-R2000S は、2 つの DisplayPort と1つの HDMI 出力に対応し、4K 出力なら 1 画面、2K 出力なら最大 3 画面の同時出力が可能。
- 弊社のクラウドサービス（マーカス、ついつとサインなど）とも連携可能です。
- 場所を取らないコンパクトな筐体。

ご注意

- LAN 環境とインターネット環境では使用可能な機能や動作に差があります。
- 動作モードや機能の設定にはネットワークが必要です。

■ II-1-3. 再生可能なコンテンツ

II-1-3-1. 動画

H.264 もしくは MPEG-2 で圧縮された動画ファイルとストリーミングの再生に対応しています。再生可能なファイルは、同時に再生するコンテンツやその他の条件によって制限が変わります。

ビデオ

- MPEG-4 AVC / H.264 (ITU-T Rec. H.264)
 - 最大解像度: 3840x2160
 - 最大ビットレート: 100Mbps
 - 最大フレームレート: 60p
 - 色空間: 4:2:0
 - 色深度: 8bit
 - ファイル形式: m2ts, mts, mp4, mov
- MPEG-2 (ISO/IEC 13818-2)
 - 最大プロファイルレベル: MP@HL
 - 最大解像度: 1920x1080
 - 最大ビットレート: 35Mbps
 - ファイル形式: mpg, m2p, m2t

オーディオ

- MPEG-1 Audio Layer1, Layer2 (ISO/IEC 11172-3)
- MPEG-2/4 AAC-LC (1~2ch)
- PCM

II-1-3-2. オーディオ

- MPEG-1 Audio Layer3, MPEG-2 Audio Layer3
- RIFF waveform Audio Format
 - 非圧縮、LPCM 1~2ch (8kHz~48kHz)
- 拡張子
 - wav, mp3

II-1-3-3. 静止画

静止画を任意の範囲に拡大、縮小して表示可能です。

- JPEG (Exif)
- PNG

- GIF (アニメーション GIF には対応していません)
- BMP
- 拡張子
 - jpg, jpeg, png, gif, bmp

II-1-3-4. HTML

HTML5に対応したブラウザ（Video タグには非対応）を搭載しています（HTML5 のすべてのページが正しく表示できることを保証するものではありません）。

- 拡張子
 - html, htm, asp

II-1-3-5. テロップ

日本語、英語、アラビア語など複数の国の言語に対応したテロップの表示が可能です。テロップは文字と背景の色、文字サイズ、背景の透過度、スクロール速度が設定可能です。

- RSS
- テキスト（文字コードは UTF-8 または Shift JIS）
- 拡張子
 - text, txt, rss, xml, rdf

II-1-3-6. SMIL

「Display Content Manager」（別売り、以下 DCM と表記）を使用して作成されたプレイリスト（SMIL2.0 のサブセット）の再生に対応しています。

- 拡張子
 - smil, smi, sml
- ※ レイアウト再生については DCM 付属のマニュアルを参照してください。

- レイアウトした複数のコンテンツ（ビデオ 2 つ（*1）、HTML2つ、静止画8つ、テロップ1つ）を同時に再生できます。（*1）ただ FullHD を超えるサイズのビデオの場合は1つ
- すべてのファイルが正しく再生できることを保証するものではありません。

II-2. 各部の名称と機能

■ II-2-1. USDP-R2000S 本体前面



① 電源ボタン	起動及びシャットダウンをするボタンです。
② 内蔵ストレージのアクセスランプ	内蔵ストレージのアクセス状態を表示します 消灯: アクセス無 点灯: アクセス中
③ 電源ランプ	起動などの電源操作の伴う状態を表示します。 消灯: 電源が入っていません 点灯: 動作状態です
④ HDMI 端子	HDMI 出力端子です。
⑤ USB3.0 端子	コンテンツドライブ用です。本機では USB1 として識別されます
⑥ USB2.0 端子	USB 対応のキーボードやマウスを接続します。
⑦ LAN2	Web コンソールへアクセスするために使用します。 IP アドレスは 172.23.45.67/16(固定)です
⑧ LAN1	コンテンツ配信、端末設定、設定のために使用します。 WEB コンソールから IP アドレスを設定できます。 出荷時は DHCP に設定されています
⑨ アナログ音声出力	コンテンツの音声出力に使用。 ※音声出力は設定により、アナログ端子、DisplayPort、HDMI が選択可能です。 音声出力の選択の詳細は VI-3-6 を参照してください。

■ II-2-2. USDP-R2000S 本体背面

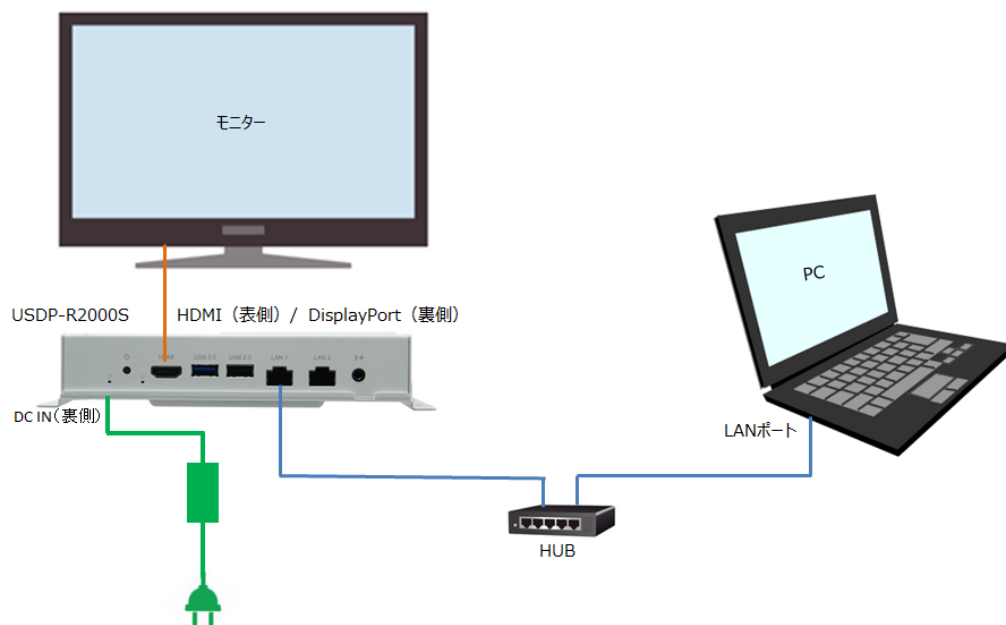


① USB2.0	USB 対応のキーボードやマウスを接続します。
② USB3.0	コンテンツドライブ用です。本機では USB2 として識別されます。
③ DisplayPort1	DisplayPort ケーブルを接続します。 1 台目のモニターの接続に使用
④ DisplayPort2	DisplayPort ケーブルを接続します。 2 台目のモニターの接続に使用
⑤ COM ポート	シリアル接続に使用します。スケジュールコマンドなどで使用します。
⑥ 電源コネクタ	付属の AC アダプターを接続します。

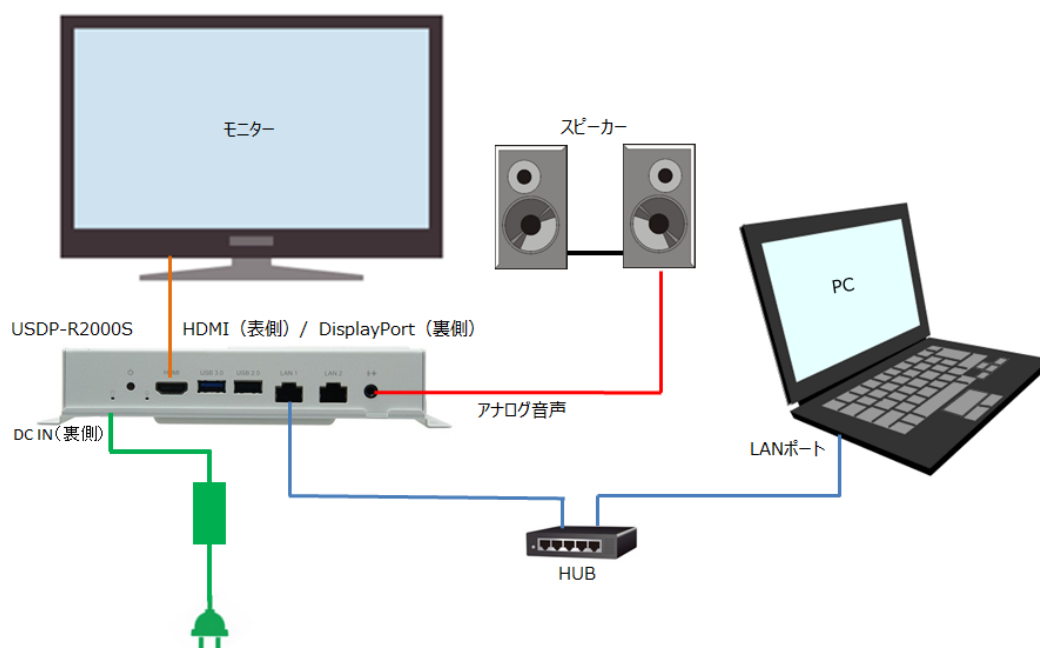
機器の接続と動作確認

■ II-2-3. 機器の接続

以下の接続例を参考に、USD-P-R2000S と周辺機器を接続してください。



HDMI / DisplayPort から音を出す場合



アナログ音声端子から音を出す場合

- USDP-R2000S とモニターを接続します。
接続例では HDMI で接続していますが、DisplayPort を利用する場合でも、DisplayPort→HDMI 変換アダプターを用いることで HDMI 接続可能です。
- 音声出力は設定で HDMI/DisplayPort 端子とアナログ音声出力端子が選択できます。
外部スピーカーで音を聴く場合は音声出力をアナログ音声出力に設定して USDP-R2000S のアナログ音声出力端子とスピーカーをアナログオーディオケーブルで接続します。
- 必要に応じてネットワークケーブルを接続します。
USBストレージ、内蔵SSDなどからコンテンツを再生するだけであれば、ネットワークケーブルを接続する必要はありません。
コンテンツの更新にネットワークを使用する場合、ネットワーク経由で制御する場合や設定を行う場合にはネットワークの接続が必要です。
- AC ケーブルを接続します。
USDP-R2000S に AC ケーブルを接続すると、電源が入り装置が起動します。

■ II-2-4. 起動とシャットダウン

起動

USDP-R2000S を起動するには次の方法があります。

- AC ケーブルを本体に接続する。
- AC ケーブルを接続しても自動的に起動しない場合は前面の電源ボタンを押す。

シャットダウン

USDP-R2000S をシャットダウンするには次の方法があります。

- 前面の電源ボタンを押す。
- Web コンソールの [機器管理] > [再起動・シャットダウン] 画面から [シャットダウン] を実行する。

シャットダウン時のご注意

電源を落とす場合は、シャットダウンをおこない、前面の電源ランプが消灯してから AC ケーブルを抜いてください。動作中に電源を落とした場合、内蔵 SSD の故障や、コンテンツファイルの破損の恐れがあります。

また、前面のリセットボタンは強制的に電源を落として再起動しますのでシャットダウンできない場合を除いて使用しないでください。

II-3. 初期設定

■ II-3-1. ネットワーク設定

II-3-1-1. Web コンソールから設定

USDP-R2000S の設定は [Web コンソール](#) から行います。

以下の(A)または(B)の方法で Web コンソールを表示してから、設定を行ってください。

(A) USDP-R2000S を DHCP サーバーが存在するネットワークに接続して設定を行う場合

USDP-R2000S の LAN1 ポートの IPv4 アドレスは DHCP を使って取得されます(工場出荷時の設定)。

1. USDP-R2000S の LAN1 ポートをネットワークに接続した状態で本体を起動します。
2. 同じネットワークに接続した Windows PC(Windows 7/Windows 8/Windows 10)でエクスプローラを起動します。

エクスプローラの[ネットワーク] > [その他のデバイス]に同一のネットワークに接続した USDP-R2000S のホスト名が表示されます。

※工場出荷時のホスト名は「USDP-xxxxxx」のように MAC アドレスから自動的に生成されたものが設定されています。

3. エクスプローラに表示されたホスト名をダブルクリックします。

(B) DHCP サーバーが存在するネットワークの環境がない場合(または(A)がうまくいかない場合)

USDP-R2000S の LAN2 ポートの IPv4 アドレスは 172.23.45.67/ 16(固定)になっています。

(LAN2 ポートは設定専用となっています)

1. Windows PC(Windows 7/Windows 8/Windows 10)と USDP-R2000S の LAN2 ポートを LAN ケーブルで接続します。
2. Windows PC の LAN ポートの IPv4 アドレスの設定を固定 IP に変更します。
※例えば、172.23.45.100/ 16 (固定)に設定します。
3. Web ブラウザー(Internet Explorer 11 以降もしくは Google Chrome か Mozilla Firefox)に次の URL を入力して Enter キーを押します。 172.23.45.67

下のような画面が表示されるので、ユーザー名およびパスワードを入力してください。

※工場出荷時設定では、ユーザー名は admin、パスワードはなし(設定されていません)。



[設定] > [ネットワーク]からネットワークの設定画面を開き[IPv6]、[有線 LAN]、[ホスト名]、[NTP]を設定してください。

ここで設定したネットワークの設定は、LAN1 ポートに反映されます。

The screenshot shows the 'ネットワーク' (Network) settings page. It is divided into three main sections: IPv6, 有線LAN (Wired LAN), and DNSサーバー (DNS Server).

- IPv6:**
 - 有効 (DHCPv6またはステートレスアドレス自動設定) is selected.
 - IPv6 Address : fd00::c6ad:21ff:fe00:11a/64
 - IPv6 Address : fe80::c6ad:21ff:fe00:11a/64
 - 無効 is unselected.
- 有線LAN:**
 - IPv4:**
 - 現在の値 (Current Value):

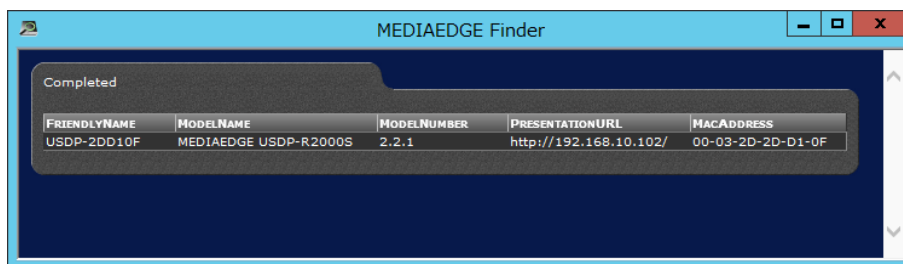
IPアドレス	: 192.168.20.104
サブネットマスク	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 192.168.20.8
 - IPv4アドレスを自動的に取得する (DHCP) is selected.
 - IPv4アドレスを自動的に割り当てる (AutoIP) is unselected.
 - 次のIPアドレスを使う (Use the following IP address) is unselected.
 - Input fields for IP address, Subnet mask, and Default gateway are empty.
 - DNSサーバー:**
 - 現在の値 (Current Value):

優先DNSサーバー	: fd00::1
代替DNSサーバー	: 192.168.20.2
DNSドメイン名	: kataokat.local
 - DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する (Obtain DNS server address automatically) is selected.
 - 次のDNSサーバーのアドレスを使う (Use the following DNS server address) is unselected.
 - Input fields for Priority DNS server, Alternate DNS server, and DNS domain name are empty.

II-3-1-2. 設定、状態の確認

同一ネットワークに PC と USDP-R2000S の LAN1 を接続し、以下の方法で Web コンソールからの設定・状態の確認ができます。

- Windows 7、Windows 8、Windows 10 ではエクスプローラの[ネットワーク] > [その他のデバイス]に同一のネットワークに接続した USDP-R2000S のホスト名が表示され、デバイスをダブルクリックすると Web コンソールが表示されます。
ホスト名を設定しない場合「USDP-xxxxxx」のように、MAC アドレスから自動的に生成します。
- PC と USDP-R2000S を同じネットワークに接続し、PC にインストールした MEDIAEDGE Finder を使用して検出可能です。
検出した USDP-R2000S の[PRESENTATION URL]をクリックすると Web コンソールが表示されます。

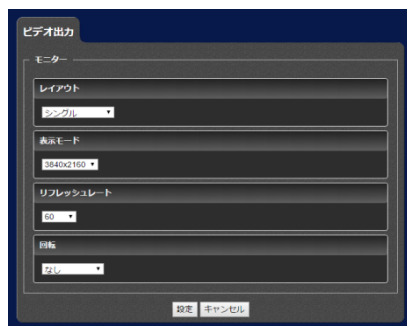


- ※ MEDIAEDGE Finder は当社ホームページからダウンロードできます。
 USDP-R2000S の他に USDP-R5000S、HDMA-4100、MEDIAEDGE-STB4H、
 MEDIAEDGE LEB Pro2/Pro/Express/Recorder、MEDIAEDGE-Decoder が検出されます。

■ II-3-2. 表示設定

USDP-R2000S とモニターを HDMI ケーブル又は DisplayPort ケーブルで接続します。DisplayPort を使用して DVI または HDMI モニターへ接続する場合、DisplayPort to DVI 変換ケーブルで接続します。設定は使用するモニターを正しく接続した状態で、[Web コンソール](#) から設定します。設定は再起動後に反映されます。

- 動作中、モニターのケーブルを引き抜くと設定どおり表示されない場合がありますのでご注意ください。
- 選択した表示モード、リフレッシュレートをサポートしないモニターを接続すると、自動的に表示可能なモードで表示します。



- ※ 設定方法は [Web コンソール](#) を参照してください。

III. ストリーミング再生

この章では、USDP-R2000S を MEDIAEDGE Server 、MEDIAEDGE LEB、ネットワークカメラに接続してストリーミングでファイルやライブ映像を再生する方法について説明します。

III-1. 概要

■ III-1-1. ストリーミング再生について

USD-P-R2000S は RTSP/RTP によるストリーミングをサポートし、サーバー、LEB、ネットワークカメラから送出される MPEG-2 トランスポートストリームを受信し再生を行います。

ストリーミング再生は動画ファイルのみサポートしており、静止画やテロップなどはネットワークからのダウンロード再生になります。

➤ RTSP

Real Time Streaming Protocol は TCP/IP ネットワーク上で、音声や動画などをリアルタイムに配信するためのプロトコルです。

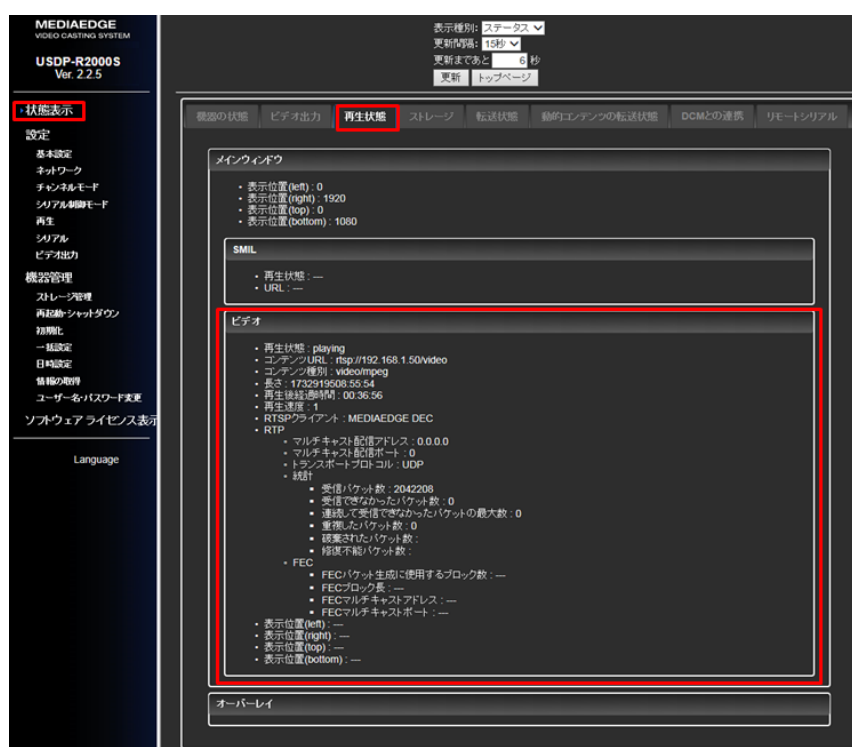
➤ RTP

Real-time Transport Protocol は音声や映像をストリーミング再生するための伝送プロトコルです。パケットロス対策や伝送時間保証などは行われていない UDP タイプのプロトコルです。

サーバー側からスケジュールで再生を開始する、スケジュール再生、ライブ映像再生などが可能です。

■ III-1-1. ストリーミング再生の状態確認

USD-P-R2000S がストリーミングを再生中、WEB コンソール画面の状態表示→再生状態→メインウィンドウのビデオの状態画面でストリーム再生関連の情報が確認できます。



■ストリーミング再生状態の確認

- コンテンツ URL
RTSP URL が表示されます。
- 受信パケット数
受信パケット数が表示されます。
- 受信できなかったパケット数
パケットロス数が表示されます。
- 連続して受信できなかった最大数
最大バーストロス数が表示されます。
- 重複したパケット数
重複パケット数が表示されます。
- 破棄されたパケット数
破棄パケット数が表示されます。
- 修復不能パケット数
修復不能パケット数が表示されます。

■正常に再生されない場合

受信パケット数が増えず、再生が開始されない場合は URL が正しく設定されているか確認してください。

URL が正しく設定されている場合、サーバー側 (MEDIAEDGE Server あるいは MEDIAEDGE LEB) の動作ログを確認してください。

再生は開始されるが映像、音声にノイズが発生する場合は、パケットロス数を確認してください。この数が増えていく場合、ネットワークが不安定なため、送信ビットレートを落とすなどの対応をしてください。

IV. チャンネルモード

この章では、USDP-R2000S に接続したストレージからファイルを再生する方法を説明します。

IV-1. チャンネル再生

■ IV-1-1. チャンネルモードについて

[home]チャンネルにコンテンツを登録して再生することができます。

チャンネルの[home]に指定したコンテンツは USDP-R2000S の起動後に再生を開始します。ここにスケジュールを登録するとスケジュール再生になります。コンテンツが登録されていない場合には黒画面が表示されます。



下記は[URL またはファイルパス]に記述するコンテンツの指定例です。

1、コンテンツの再生スケジュールを記述

(例) MEDIAEDGE/_Schedule#scheduleID=home

指定されたスケジュールに従ってコンテンツが再生されます。

DCM を使用してコンテンツや再生スケジュールを送った時に自動的に記述されます。

2、コンテンツの格納されたフォルダーを記述

(例) file:///drives/default/Contents

指定フォルダー (Contents) に格納されたコンテンツを順番にループ再生します。

3、再生するコンテンツを直接記述

(例) file:///drives/default/Contents/Sample.mp4

指定したコンテンツ (Sample.mp4) を繰り返し再生します。

4、MEDIAEDGE サーバーから配信されるストリーム URL を記述

(例) rtsp://MEDIAEDGE-SVR/Content01

指定したコンテンツ (Content01) を繰り返し再生します。

5、LEB Pro2/Express2 から配信されるストリーム URL を記述

(例) `rtsp://[IP address]/video`

指定した LEB のライブ映像を再生します。

6、ネットワークカメラから配信されるストリーム URL を記述

※対象は H.264 ストリーム、ONVIF 規格に対応したネットワークカメラですが、ONVIF 規格の全てのネットワークカメラに対応しているわけではありません。

(例) SONY

`rtsp:// [IP address]/ media/video1`

Panasonic

`rtsp://[ip address]MediaInput/h264`

`rtsp://[ip address]MediaInput/h264/stream_1`

指定したネットワークカメラのライブ映像を再生します。

IV-2. スケジュール再生

■ IV-2-1. スケジュール再生について

USDP-R2000S はスケジュール再生に対応しています。

スケジュールを自動的に起動するには、チャンネルモードの[home]チャンネルに再生するスケジュールを登録します。

■ IV-2-2. DCM

USDP-R2000S のスケジュールとレイアウト作成には DCM を使用します。

DCM については、DCM に付属のマニュアルを参照してください。

USDP-R2000S は DCM 1.90 以降に対応しています。

■ IV-2-3. フィラー再生

スケジュールファイルの再生でエラーが発生した場合、特定のコンテンツを再生することが可能です。

MEDIAEDGE では、このとき再生するコンテンツをフィラーファイルやフィラーコンテンツと呼びます。

また、フィラーファイルを再生することをフィラー再生と呼びます。

フィラーファイルが再生されるとログに再生エラーとフィラーファイルの再生が記録されます。

スケジュール上の次のコンテンツに切り替わると、フィラー再生は停止しスケジュールに戻ります。

スケジュール

空き時間をエラーとみなす

☒ 有効 ☐ 無効

エラー発生時にフィラーを再生

☒ 有効 ☐ 無効

フィラーファイル

■ IV-2-4. 設定

IV-2-4-1. 詳細設定

[基本設定] > [ドライブの書き込み権限]

基本設定の[デフォルトドライブ]で選択したドライブは[リードライト]に設定してください。

デフォルトドライブ	
<input checked="" type="radio"/> 内蔵HDD	<input type="radio"/> USB1
<input type="radio"/> USB2	<input type="radio"/> ネットワークドライブ

ドライブの書き込み権限	
内蔵HDD	<input type="radio"/> リードオンリー <input checked="" type="radio"/> リードライト
USB1	<input type="radio"/> リードオンリー <input checked="" type="radio"/> リードライト
USB2	<input type="radio"/> リードオンリー <input checked="" type="radio"/> リードライト
ネットワークドライブ	<input checked="" type="radio"/> リードオンリー <input type="radio"/> リードライト

[ネットワーク] > [サービスとの連携]

DCM サーバーの認証アカウントのユーザー名やパスワードを規定値から変更している場合は、新しいユーザー名とパスワードを設定してください。

→ [サービスとの連携設定](#)

[再生] > [スケジュール]

スケジュール再生中にエラーが発生した場合にフィラーコンテンツを再生するかどうかの設定を行います。

→ [フィラー再生設定](#)

V. シリアル制御再生

この章では、シリアル制御コマンドを使って USDP-R2000S に接続したストレージからファイルを再生する方法を説明します。

V-1. シリアル制御モードについて

シリアル制御モードは、シリアルポートまたはネットワークからの制御コマンドによって再生制御を行うモードです。

シリアル制御モードで起動すると、USDP-R2000S は制御コマンドの待機状態となり、送られてきた制御コマンドを順に処理していきます。

USDP-R2000S の制御コマンドは、パイオニア株式会社製 LD、DVD 機器の制御コマンドのサブセットとなっており(独自拡張のコマンドを含む)、HDMA-4100 のシリアル制御モードの「Pioneer LD/DVD 互換モード」と互換性があります(*1)。

制御コマンドの詳細については後述の「対応コマンド一覧」を参照ください。

シリアル制御モードで再生対象となるコンテンツは動画ファイルのみです。

起動時にコンテンツフォルダー(*2)以下の動画ファイルに自動的にコンテンツアドレス(*3)が割り当てられ、制御コマンドのパラメーターでコンテンツアドレスを指定して再生制御を行います。

(*1) HDMA-4100 のシリアル制御モード用に作られたすべての制御プログラムの動作を保証するものではありません。

(*2) 動画ファイルを配置するフォルダー。後述の「コンテンツの配置」を参照ください。

(*3) コンテンツアドレスについては後述の「コンテンツの配置」を参照ください。

V-2. 設定

Web コンソールから以下の設定を行い、[設定]ボタンを押して保存します。

1. [設定] > [基本設定]
 - [動作モード]で、[シリアル制御モード]を選択します。
2. [設定] > [シリアル制御モード]
 - [コンテンツドライブ]で、再生に使用するドライブを選択します。
 - [コンテンツフォルダーパス]で、コンテンツを格納するフォルダー（コンテンツフォルダー）のパスを指定します。
 - ネットワーク経由で制御を行う場合は、[ネットワークシリアル制御]を[有効]にします。
 - [再生開始コマンド(PL)から再生開始までの遅れ]は 0 ミリ秒（工場出荷時設定）にしておきます。
3. [設定] > [ネットワーク]
 - [ファイル共有] > [共有]を[有効]にします。
 - [ファイル共有] > [アカウント]で、ユーザー名とパスワードを指定します。
 - [ファイル共有] > [共有ドライブ権限]で、2. の[コンテンツドライブ]で指定したドライブの権限に[リードライト]を選択します。
4. [設定] > [シリアル] ※シリアルポート経由で制御を行う場合のみ（ネットワーク経由の場合は不要）
 - [シリアルポート機能]で、[シリアル制御]を選択します。
 - [通信速度]、[データビット長]、[パリティ]、[ストップビット長]、[フロー制御]は、制御機器側の設定と同じ値に設定します。

V-3. 接続

A) シリアルポートを使って制御する場合

制御機器と USDP-R2000S のシリアルポート(RS-232C ポート)をシリアルケーブルで接続します
(PC と接続する場合はクロスケーブルを使用します)。

B) ネットワーク経由で制御する場合

制御機器(PC など)から USDP-R2000S のネットワークシリアル制御ポート(工場出荷時設定:12000)に telnet などのターミナル通信ソフトで接続してください。

V-4. コンテンツの配置

シリアル制御モードで再生する動画ファイルは、あらかじめコンテンツフォルダーに配置しておく必要があります。

コンテンツフォルダーは、Web コンソールの[設定] > [シリアル制御モード]で指定した[コンテンツドライブ]と[コンテンツフォルダーパス]によって決定されます。

シリアル制御モードでは、起動時にコンテンツフォルダーに配置された動画ファイルに対して自動的にコンテンツアドレスが割り当てられます。

コンテンツアドレスの割り当てルールは以下の通りです。

- コンテンツアドレスはタイトルナンバー、チャプターナンバーで構成されます。
- タイトルの数は最大で 99 個です。
- 1つのタイトルは 1 個から 99 個のチャプターを含むことができます。
- 1つのチャプターは 1 個から 99 個の動画ファイルを含むことができます。
- 拡張子が m2p、m2t、m2ts、mts、mpg のファイルが動画ファイルとして認識されます。
- コンテンツフォルダー直下のフォルダーまたは動画ファイルに対して(フォルダー名またはファイル名の昇順に)タイトルナンバーが割り当てられます。
- タイトルナンバーが割り当てられたフォルダー直下のフォルダーまたは動画ファイルに対して(フォルダー名またはファイル名の昇順に)チャプターナンバーが割り当てられます。
- チャプターナンバーが割り当てられたフォルダー以下の動画ファイルは(チャプターのフォルダーからの相対パスの昇順に)再生されます。

例) コンテンツフォルダーの構成とコンテンツアドレス

コンテンツフォルダーからの相対パス	タイトルナンバー	チャプターナンバー	チャプター内での再生順
title01/chapter01/sample01.m2p	1	1	1
title01/chapter01/sample02.m2t	1	1	2
title01/chapter01/sample03.mts	1	1	3
title01/chapter02/sample04.mpg	1	2	1
title02/chapter01.mpg	2	1	1
title02/chapter02.mpg	2	2	1
title03.mpg	3	1	1

V-5. シリアル制御モードの初期状態

- 現在位置: タイトル1、チャプター1
- アドレスモード: タイトル指定
- リピートモード: リピートしない
- 再生状態: 停止

V-6. 制御方法

シリアルポートまたはネットワークシリアル制御ポートに対してコマンドを発行します。

- 使用可能なコマンドについては「対応コマンド一覧」を参照ください。
- コマンドは1つずつ発行することも、複数のコマンドをまとめて(最大 255 文字まで)発行することもできます。
- コマンドの発行単位をコマンドラインと呼びます。
- コマンドラインの末尾には終端コードとして<CR>(ASCIIコード:0x0d)が必要です。
- コマンドの実行が成功した場合は R<CR>、失敗した場合は Exx<CR> (xx はエラーコード)がレスポンスとして返されます。
- コマンドのレスポンスについては「エラーコード一覧」を参照ください。
- コマンドラインに複数のコマンドが含まれる場合
 - コマンドが順に実行され、最後のコマンドの実行結果がレスポンスとして返されます。
 - 途中のコマンドでエラーが発生した場合はレスポンスとしてエラーが返され、以降のコマンドは実行されません。
- 発行したコマンドラインのレスポンスが返ってから、次のコマンドラインを発行してください。
 - コマンドラインの処理中に次のコマンドラインが発行された場合、未実行のコマンドは無視され、次のコマンドラインの処理が行われます。

V-7. 対応コマンド一覧

Pioneer LD/DVD 互換コマンド

<arg>はコマンドのパラメーターを表す。(arg)は省略可能。

<adrs>にはアドレス(タイトルナンバーまたはチャプターナンバー)を指定する。(adrs)は省略可能。

コマンド	説明
TI	アドレスモードをタイトルにする。
CH	アドレスモードをチャプターにする。
(adrs)PL	現在位置から再生を開始する。アドレス指定した場合、指定位置で停止する。
PA	映像を表示した状態で静止する。
ST	映像を表示した状態で静止する(PA と同じ)。
<adrs>SE	指定したアドレス位置を表示した状態で静止する。
<adrs>SL	指定したアドレス位置から再生を開始する。
<arg>SK	チャプターを前後、先頭に移動して静止する。 1: 次のチャプター 2: 1 つ前のチャプター 3: 現在のチャプターの先頭
<adrs>SM	指定アドレスにストップマーカを設定する。
<arg>MS	リピートモードを設定する。 0: リピートしない(最後のタイトルの末尾で静止) 8: チャプターをリピート 16: タイトルをリピート 24: 全体をリピート
RM	現在のアドレスモードに対応するリピートモードを設定する。 アドレスモードがタイトルの場合、タイトルをリピート(16MS と同じ) アドレスモードがチャプターの場合、チャプターをリピート(8MS と同じ)
CL	ストップマーカ、リピートモードを解除する。
<arg>AU	オーディオ設定(ミュートのみサポート) 0: ミュート 1: ミュート解除
<arg>AD	オーディオ設定(ミュートのみサポート) 0: ミュート 3: ミュート解除 4: ミュート
(arg)RJ	再生を停止し、ストップマーカ、リピートモードを解除する。

	※HDD の回転停止には非対応。引数は無視する。
SA	何もせずに成功を返す。 ※HDD の回転を開始には非対応。
<arg>KL	リモコン操作に関する設定を行う。 0: 有効 1: 無効 2: 電源 OFF のみ無効(拡張設定)
WW	次の形式で時間を設定する。 WW<CR> YYMMDDWWhhmmss<CR> ※YY:年、MM:月、DD:日、WW:曜日(月:00～日:06)、hh:時、mm:分、ss:秒 ※WW:曜日は無視されるので 00～99 までの任意の値でよい
?A	現在位置(書式:TTCCMMMMSS)を返す。 TT:タイトルナンバー2桁、CC:チャプターナンバー2桁、MMMM,SS:時間(非対応のため常に0)
?R	現在位置のタイトルナンバー(書式:TT)を返す。 TT:タイトルナンバー2桁
?C	現在位置のチャプターナンバー(書式:CC)を返す。 CC:チャプターナンバー2桁
?P	プレイヤーの現在の再生状態を返す。 P04: 再生中 P05: 一時停止中 P06: 停止中
?S	リピートモードの設定値(MS コマンドで設定した値)を返す。
?E	最後に返したエラーコード(R を含む)を返す。
?X	機種名(USDP-R5000 または R2000S)を返す。
?W	時間(書式:YYMMDDWWhhmmss)を返す。 ※YY:年、MM:月、DD:日、WW:曜日(月:00～日:06)、hh:時、mm:分、ss:秒
?Z	ファームウェアのバージョンを返す。

独自拡張コマンド

<arg>はコマンドのパラメーターを表す。(arg)は省略可能。

<adrs>にはアドレス(タイトルナンバーまたはチャプターナンバー)を指定する。(adrs)は省略可能。

コマンド	説明
SO	再生を停止する(黒画面にする)。
<adrs>MV	停止状態で指定したアドレス位置に移動する。
<arg>VO	音量を設定する(左右同じ)。 0 以上 50 以下
<arg>VL	左音量を設定する。 0 以上 50 以下
<arg>VR	右音量を設定する。 0 以上 50 以下
<arg>RX	拡張設定(各設定値の和を書き込む)。 1: 停止時に黒画面にする 2: SE でファイルの先頭を表示しない 4: CL でリピートモードをクリアしない
<arg>CD	コンテンツを検索するドライブを変更する。 0: 内蔵 HDD 1: USB1 2: ネットワークドライブ 6: USB2 (※USDP-R2000S 拡張)
<arg>CR	コンテンツを検索するフォルダーを変更する。 <arg>にコンテンツフォルダ(*1)からの相対パスを""で囲んで指定する。
<arg>PO	USDP-R2000S の動作モードを変更する。 0: 起動時の動作モードに切り替える 1: シリアル制御モードに切り替える 2: チャンネルモードに切り替える(※USDP-R2000S 拡張) 3: メニューモードに切り替える(※USDP-R2000S 拡張) ※動作モードがシリアル制御モード以外で動作中も実行可能
(arg)POFF	電源状態を制御する。 arg なし: シャットダウンする 99: 再起動する ※動作モードがシリアル制御モード以外で動作中も実行可能
?I	IP アドレスを返す。 IP アドレスが設定されていない場合は R を返す 複数の IP アドレスがある場合は<LF>区切りで返す
?O	音量の設定値(書式: LLRR)を返す。

	LL:左音量、RR:右音量
?L	タイトルの数、チャプターの数を出す。 タイトルモードの場合はタイトルの数を出す。 チャプターモードの場合は現在のタイトル中のチャプターの数を出す。
\$X	拡張設定の設定値(RX コマンドで設定した値)を出す

(*1) コンテンツフォルダー

再生対象のコンテンツを格納したフォルダーのパス。

Web コンソールの[設定] > [シリアル制御モード] > [コンテンツフォルダー]で設定する(初期値: MEDIAEDGE/_Serial)。

V-8. エラーコード一覧

コマンドに対して次のレスポンスが返ります。

- R 成功(値を返さないコマンドの場合の応答)
- E00 通信エラー
- E04 使用できない機能
- E06 正しいパラメーターが指定されていない
- E12 サーチアドレスが見つけられない
- E80 シリアル制御が停止中(割り込み再生中または他の動作モードで動作中)
- E99 致命的なエラーが発生した

VI. 機能・動作

この章では、コンテンツの更新方法やリモートシリアルなどの機能について説明します。

VI-1. コンテンツの更新

■ VI-1-1. 更新について

USDP-R2000S での再生に必要なコンテンツやスケジュールファイルなどを本体にコピーするには次のような複数の方法があります。使用用途により方法を選択していただくことになります。

複数の方法を組み合わせて使用することも可能ですが、その場合にはそれぞれの操作の中での整合性を考慮する必要があります。

■ VI-1-2. DCM との連携

スケジュールを DCM で作成し、コンテンツを管理する場合には DCM との連携が必要になります。DCM と USDP-R2000S に適切な設定を行い、連携させると DCM の操作のみで USDP-R2000S にコンテンツを書き込み、スケジュールを設定することができます。

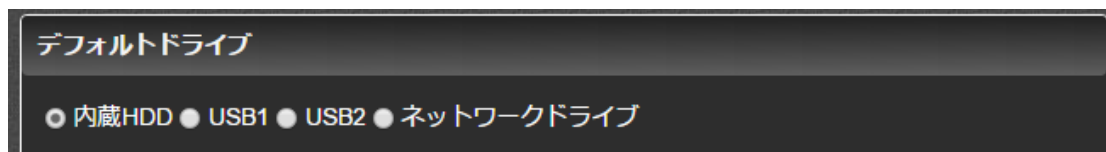
DCM を使用せずに、別のソフトでスケジュールファイルを作成し運用する場合にはそれぞれのアプリケーションの使用方法を参照してください。

USDP-R2000S の Web コンソールにて次の設定を行なってください。

VI-1-2-1. 基本設定

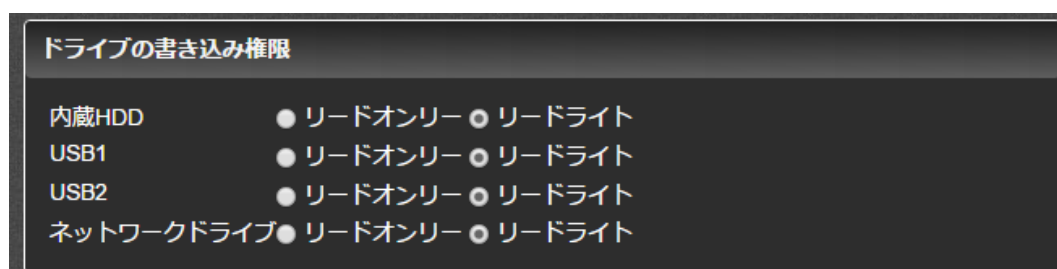
デフォルトドライブ

DCM を使用してコンテンツファイルを転送するドライブを選択します。USB ストレージを選択した場合、実際にデバイスが接続されていない場合には、コンテンツの転送でエラーになります。



ドライブの書き込み権限

コンテンツを転送するドライブは[リードライト]に設定します。使用しないドライブに関してはどちらに設定していても問題ありません。



VI-1-2-2. ネットワーク

詳細な設定方法は、[ネットワーク設定](#)を参照してください。DCM とアクセス可能なように適切に設定する必要があります。

サービスとの連携

サービスとの連携

連携

☒ 有効 ☐ 無効

サービス

☒ DCM

DCMサーバー

ホスト名

ポート番号

アカウント

ユーザー名

パスワード

- 連携
有効に設定します。
- サービス
DCM を選択します。
- DCM サーバー
DCM サーバーのアドレスと使用するポートアドレス (DCM の設定に合わせる必要があります) を設定します。外部にある DCM サーバーに接続する場合には、ルーターなどもアクセス可能なように設定する必要があります。
- アカウント
DCM に設定したのと同じユーザー名とパスワードを設定します。

VI-1-2-3. チャンネルモード

DCM を使用する場合、チャンネルに関する設定は DCM 経由で行われます。



■ VI-1-3. ファイル共有

ファイル共有を有効にすると、USDP-R2000S のドライブにネットワーク経由でアクセスすることが可能になります。

書き込み可能に設定したドライブは自由にコンテンツの更新が可能になります。ただし再生中のファイルを削除したり、上書きしたりすると再生が失敗します。

VI-1-3-1. ネットワーク

詳細な設定方法は、ネットワーク設定を参照してください。Windows PC からアクセス可能なように適切に設定する必要があります。

ファイル共有



共有ドライブ	権限
内蔵HDD	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> リードオンリー <input checked="" type="radio"/> リードライト
USB1	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> リードオンリー <input checked="" type="radio"/> リードライト
USB2	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> リードオンリー <input checked="" type="radio"/> リードライト

- 共有
有効に設定します。
- アカウント
共有ドライブに接続する際のアカウントと設定値を設定します。
初期値はアカウントが[mediaedge]、パスワードは設定されていません。
- 共有ドライブ権限
それぞれのドライブに対する共有の権限を設定します。無効に設定すると、そのドライブは共有されません。
共有ドライブの権限はドライブの書き込み権限とは別に設定できますが、ドライブが[リードオンリー]の場合に[リードライト]に設定しても書き込みはできません。

■ VI-1-4. USB ストレージ経由のコンテンツ更新

USB ストレージに更新すべきコンテンツファイルと更新制御スクリプト (update.inst) を入れておき、USDP-R2000S に挿入することで、スケジュール再生で使用するコンテンツの更新を行うことができます。USDP-R2000S は USB ストレージの接続を認識し、デフォルトドライブとして設定されているドライブへコンテンツの更新を行います。コンテンツの更新が完了すると新しいコンテンツやスケジュールで再生を再開します。

更新制御スクリプトについては[更新制御スクリプト](#)の章を参照してください。

ご注意

コンテンツ更新中に USB ストレージを抜くと正常に更新が行われず、ファイルが壊れ、再生が正常に行われない場合がありますのでご注意ください。

■ VI-1-5. デバイスに直接書き込む

USB ストレージを使用する場合には、デバイスを USDP-R2000S から取り外し PC などから直接コンテンツを書き込むことができます。

USDP-R2000S ではファイルシステムとして NTFS、FAT16/32、exFAT に対応しています。

VI-2. ネットワーク

■ VI-2-1. 時刻設定(NTP)

NTP(Network Time Protocol)は、ネットワークに接続される機器が持つ時計を正しい時刻へ同期するための通信プロトコルです。

インターネットやローカルのネットワーク内に設置されている NTP サーバーのアドレスを指定することで、自動的に時刻を補正します。使用する NTP サーバーに関してはネットワーク管理者に確認してください。

USDP-R2000S では起動後および定期的に NTP サーバーに時刻を問い合わせ、補正を行います。更新間隔は NTP サーバーの精度に応じて自動的に調整されます。

■ VI-2-2. UPnP

UPnP(Universal Plug and Play)は機器をネットワークに接続すると、自動的に検出し情報を取得するプロトコルです。

MEDIAEDGE Finder や Windows 7 / Windows 8 / Windows 10 では UPnP を使用して、同じネットワークにある USDP-R2000S などの UPnP に対応した機器を検出します。

UPnP では起動時、シャットダウン時の他にも一定間隔で認識用のパケットをネットワークに送出しています。ストリーミングのパケットがネットワークの影響を受けるような場合にはパケットの送出を止めることも可能です。

VI-3. その他

■ VI-3-1. リモートシリアル

リモートシリアルは USDP-R2000S の COM ポートに接続した RS-232C からの通信を、ネットワークを経由して中継する仕組みです。

ネットワーク上の中継先とは一対一での接続になり、複数の中継先との一対多の通信はできません。

接続モードの連動とは、ストリーミングを開始するとストリーミングサーバーに対して接続を行う機能です。

固定接続先を指定した場合は接続先に指定したアドレスと接続します。サーバー動作の場合は接続を待受け、最初に接続に来た機器と接続します。

■ VI-3-2. ログ

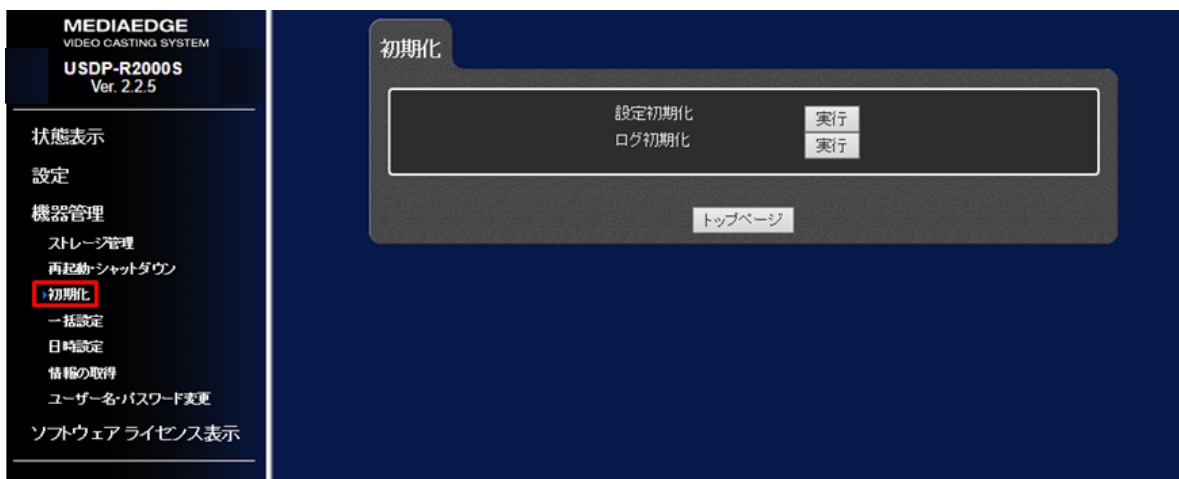
USDP-R2000S は再生やファイル転送、発生したエラーのログを本体内に保持し、Web コンソールの「状態表示」画面に表示します。

また Web API を利用して外部から読み出すことも可能です。

内部に保持しているログは一定量を越えると自動的に古いものから削除されます。エラーが連続するなどでログが大量に発生すると保持期間が短くなることがあります。

Web コンソールの[機器管理] > [初期化] > [ログ初期化]でログを削除することが可能です。これはなんらかの理由でログ保持情報を削除する場合に行います(通常の場合には使用しません)。

装置の故障等で不具合が発生した場合には、[機器管理] > [情報の取得] > [ログの取得]で動作ログや内部状況をファイルとして出力することができます。取得したデータは当社カスタマーサポートまでお送りください。



VII. Web コンソール

USDP-R2000S に PC から、Web ブラウザーでアクセスすると Web コンソールによる設定や操作を行うことができます。

この章では Web コンソールの操作と設定について説明します。

VII-1. アクセス方法

Web ブラウザー (Windows 上で動作する Internet Explorer 11 以降もしくは Google Chrome か Mozilla Firefox) で USDP-R2000S を開いてください。USDP-R2000S の IP アドレスが分からない場合には、まず [ネットワーク設定](#) を参照してください。

例) : USDP-R2000S の IPv4 アドレスが 192.168.0.20 である場合、次のように URL を入力します。

<http://192.168.0.20> 又は 192.168.0.20

下のような画面が表示されるので、ユーザー名およびパスワードを入力してください。

※工場出荷時設定では、ユーザー名は admin、パスワードはなし(設定されていません)。



次の画面が表示されます。



左側のメニュー下部の[Language]より表示言語を日本語/英語から選択できます。

次に画面左側メニューについてそれぞれ説明していきます。

VII-2. 状態表示

この画面では、USDP-R2000S の状態やログを確認することができます。状態表示画面を開くと次の画面が表示されます。

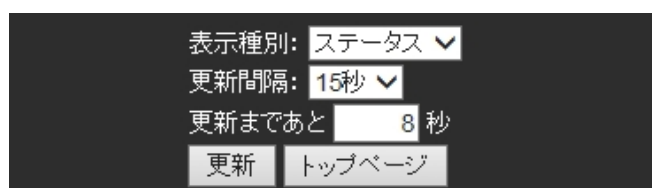


画面の上部の[表示種別]のセレクトボックスからステータスやログなどの表示を切り替えることができます。表示できる情報は以下の通りです。

- ステータス
- 動作ログ
- エラーログ
- 転送ログ

この画面は一定間隔の時間で表示の自動更新を行うことができます。更新間隔は 15 秒、30 秒、45 秒、60 秒の中から選択できます。[手動]を選択すると自動更新を行いません。その場合は[更新]ボタンで表示を更新してください。

■ VII-2-1. ステータス



USDP-R2000S の現在の動作状態を表示します。

VII-2-1-1. 機器の状態



- CPU 使用率
CPU の使用率が表示されます。
- メモリ空き容量
使用可能なメモリの残り容量が表示されます。
- 使用済みメモリ容量
使用済みのメモリ容量が表示されます。
- 起動後経過時間
起動してから経過した時間が表示されます。再起動するとリセットされます。
- 筐体内部温度
筐体内の温度を表示します。

動作モード

➤ モード

現在の動作モードを表示しています。通常、動作モードには「channel」と表示されます。外部からネットワーク制御によって割り込みの再生が行われたときは「interrupted_playback」になります。

➤ 動作状態

現在の動作モードによる動作の状態が「good/bad」で表示されます。「bad」になっている場合はログを確認してください。

➤ チャンネル No

チャンネルモードで動作している場合に、現在再生しているチャンネル No が表示されます。

➤ メニューURL

現在使用していません。

➤ コンテンツアドレス

現在使用していません。

➤ コンテンツ URL

現在再生しているコンテンツの URL またはファイルパスが表示されます。

➤ 表示状態

表示状態には content (コンテンツ) と表示されます。

ハードウェア情報

➤ 製品名

製品名が表示されます。

➤ 有線 MAC アドレス

LAN1 ポートの MAC アドレスが表示されます。

➤ 内蔵 HDD

「Exist」と表示されます。SSD に故障が発生してもこの表示は変わりません。各ストレージの状態は[ストレージ](#)から確認してください。

UPS

➤ UPS

無停電電源装置(UPS)の検出状況が表示されます。

検出状態: Detected、非検出状態: none

➤ UPS への AC 入力

接続されている UPS への AC 入力の検出状況が表示されます。

AC 入力検出された場合: Detected、AC 入力検出されない場合: none

➤ バッテリー駆動時間

UPS がバッテリー駆動状態になってからの経過時間(秒)が表示されます。

➤ バッテリー残容量

UPS のバッテリー残容量(%)が表示されます。

VII-2-1-2. ビデオ出力

機器の状態

ビデオ出力

再生状態

ストレージ

転送状態

DCMとの連携

ディスプレイ

ID	width	height	x	y	rate
DisplayPort-0	1920	1080	0	0	60.00

音声出力先

	No	name
O	0	alsa_output.pci-0000_00_1f.3.analog-stereo
	1	alsa_output.pci-0000_01_00.1.hdmi-stereo

➤ ディスプレイ

接続、認識されているディスプレイモニターの識別 ID や設定されている表示位置、解像度、リフレッシュレートの情報が表示されます。

➤ 音声出力先

接続、認識されている音声出力デバイスの識別番号、名前が表示されます。また設定で音声出力先デバイスとして選択されているデバイスは先頭の「O」印で確認できます。

VII-2-1-3. 再生状態



本製品には複数のウィンドウを画面に表示することができ、ここでは各表示ウィンドウの状態が表示されます。

- メインウィンドウ
 - SMIL
 - ビデオ
 - HTML
 - 静止画
 - テロップ
- オーバーレイビデオ
- オーバーレイHTML
- オーバーレイ静止画
- オーバーレイテロップ
- オーバーレイ時計

VII-2-1-4. ストレージ



現在接続されている各ストレージの状態が表示されます。本製品に接続することのできるストレージには次の種類があります。

- 内蔵 HDD
- USB1
- USB2
- ネットワークドライブ

各ストレージには次の値が表示されています。接続されていないストレージに関しては「---」と表示されます。

➤ ファイルシステム

ファイルシステムの種類が表示されます。

➤ アクセスモード

「read only」または「read write」のどちらの権限で接続しているかが表示されます。

➤ ストレージ容量

ストレージ全体の容量が表示されます。

➤ 使用量

ストレージの使用済みの容量が表示されます。

➤ 空き容量

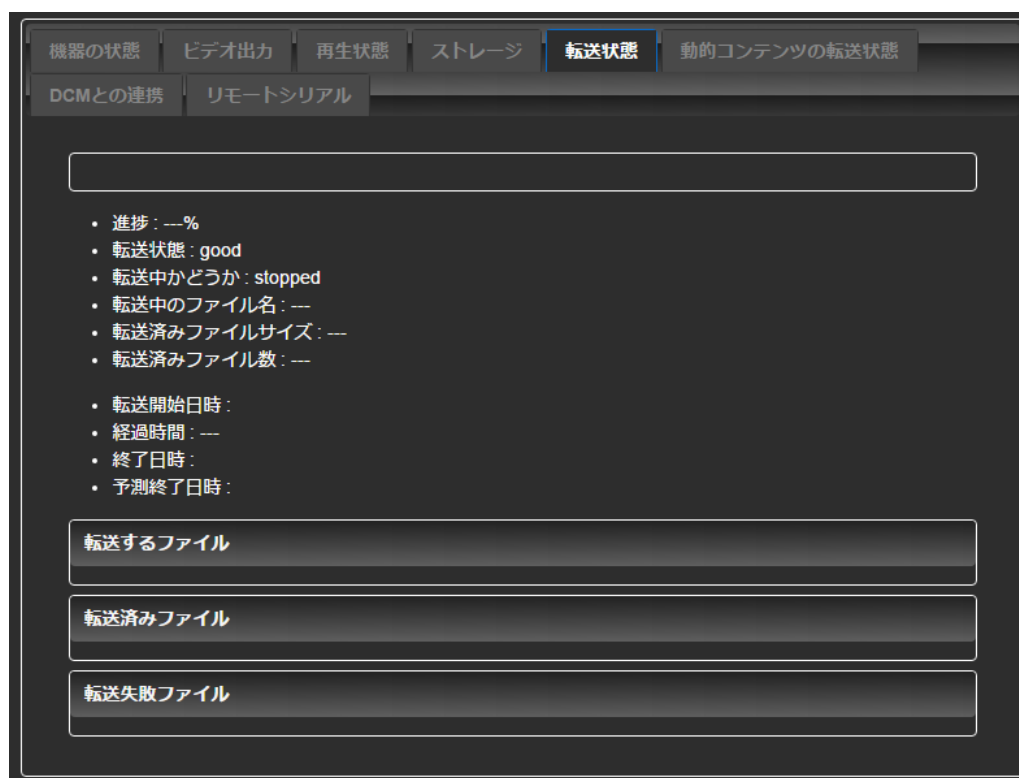
ストレージの使用可能な容量が表示されます。

内蔵 HDD 以外のストレージについては、接続されている場合[安全な取り外し]ボタンが表示されています。これらのストレージを取り外す際は、必ずこのボタンを押してから取り外してください。

ご注意

アクセス中（コンテンツ再生中や配信中）のストレージは絶対に取り外さないでください。必ず[安全な取り外し]を行ってください。コンテンツファイルやファイルシステムが壊れることがあり、ストレージの故障の原因となります。

VII-2-1-5. 転送状態



DCM と連携してファイルを転送する際の状態や転送ファイル状況を表示します。

- 進捗
全体の転送処理における進捗をパーセントで表示します。進捗は上部のプログレスバーにも反映されます。
- 転送状態
転送処理に問題があるかどうか「good/bad」で表示されます。「bad」と表示されている場合は転送ログを確認してください。
- 転送中かどうか
転送中は「running」と表示されます。転送が終了すると「stopped」と表示されます。
- 転送中のファイル名
転送するファイルの中で、現在転送されているファイル名が表示されます。
- 転送済みのファイルサイズ
「転送済みのファイルの合計サイズ/転送予定のファイルの合計サイズ」の書式で転送済みファイルサイズが表示されます。
- 転送済みファイル数
「転送済みファイル数/転送予定のファイル数」の書式で転送済みファイル数が表示されます。
- 転送開始日時
転送を開始した日時が表示されます。
- 経過時間
転送開始日時から経過した時間が表示されます。

- 終了日時
転送が終了すると、その日時が表示されます。
- 予測終了日時
転送が終了すると予測される日時が表示されます。この日時通りに転送が終了することを保証するものではありません。
- 転送するファイル
転送する/されたファイル名が表示されます。
- 転送済みファイル
転送済みのファイル名が表示されます。
- 転送失敗ファイル
転送に失敗したファイル名が表示されます。

VII-2-1-6. 動的コンテンツの転送状態

The screenshot shows a software interface with a top navigation bar containing tabs: 機器の状態, ビデオ出力, 再生状態, ストレージ, 転送状態, and 動的コンテンツの転送状態 (which is selected). Below this is a sub-bar with DCMとの連携 and リモートシリアル. The main area displays two sections, #1 and #2, each containing a progress bar and a list of status details.

動的コンテンツの転送状態

DCMとの連携 リモートシリアル

#1

進捗: --%
 転送状態: good
 転送中かどうか: stopped
 転送中のファイル名: --
 転送済みファイルサイズ: -/-
 転送済みファイル数: -/-

転送開始日時:
 経過時間: --
 終了日時:
 予測終了日時:

転送するファイル

転送済みファイル

転送失敗ファイル

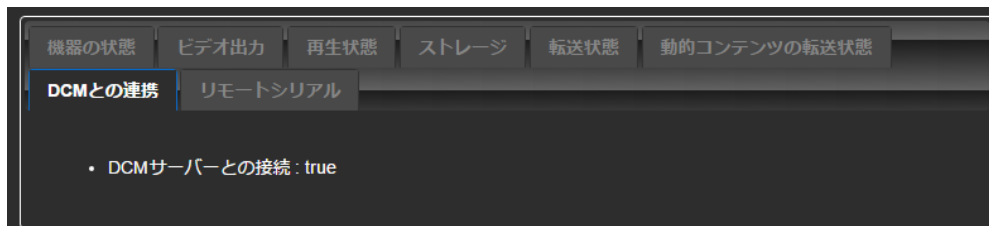
#2

進捗: --%
 転送状態: good
 転送中かどうか: stopped
 転送中のファイル名: --
 転送済みファイルサイズ: -/-
 転送済みファイル数: -/-

動的コンテンツ#1～#5 の転送ファイル状況を表示します。

表示内容については VII-2-1-5.転送状態と同じです。

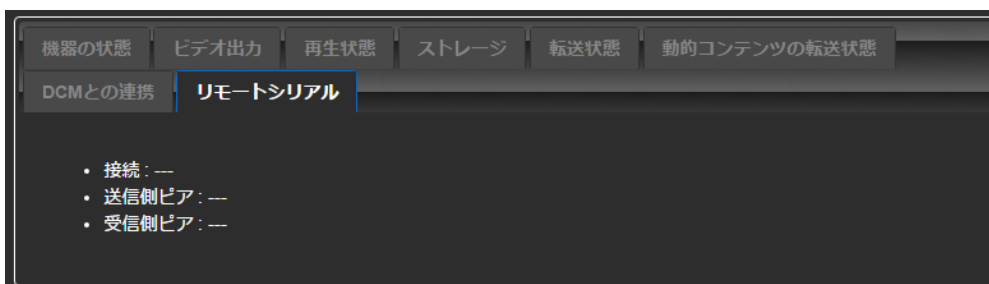
VII-2-1-7. DCM との連携



➤ DCM サーバーとの接続

DCM との通信状態は「true/false」で表示されます。「false」の場合、[ネットワーク](#)設定や DCM サーバーの状態を確認してください。

VII-2-1-8. リモートシリアル



➤ 接続

リモートシリアルの接続状態が「true/false」で表示されます。

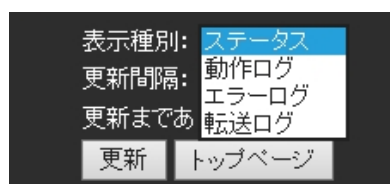
➤ 送信側ピア

送信側の IP アドレスとポート番号が表示されます

➤ 受信側ピア

受信側の IP アドレスとポート番号が表示されます

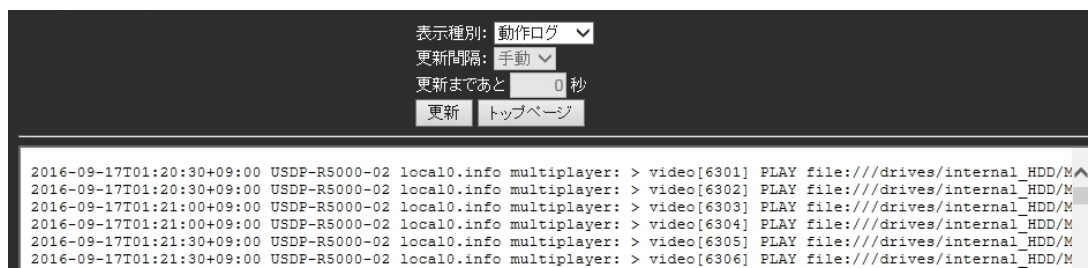
■ VII-2-2. ログ



USDP-R2000S のログを表示します。

動作ログ

再生状態および動作の状態を表示します。



取扱説明書

エラーログ

装置内部で発生したエラーログを表示します。

表示種別: エラーログ ▼

更新間隔: 15秒 ▼

更新まであと 6 秒

更新

トップページ

```
2016-09-15T15:13:50+09:00 USDP-B2CA58 local0.err mgtransfer: /home/canopus/bin/rmsched.
```

転送ログ

DCM と連携してファイルを転送するログを表示します。

表示種別: 転送ログ ▼

更新間隔: 15秒 ▼

更新まであと 7 秒

更新

トップページ

```
2016-09-15T10:46:54+09:00 USDP-B37396 local0.info mgtransfer: download root directory is changed (drive : internal^
2016-09-15T11:59:56+09:00 USDP-B2CA58 local0.info mgtransfer: download root directory is changed (drive : internal
2016-09-15T14:43:15+09:00 USDP-B2CA58 local0.info mgtransfer: download root directory is changed (drive : internal
2016-09-15T15:02:41+09:00 USDP-B2CA58 local0.info mgtransfer: download root directory is changed (drive : internal
2016-09-15T15:06:02+09:00 USDP-B2CA58 local0.info mgtransfer: download root directory is changed (drive : internal
2016-09-15T15:12:48+09:00 USDP-B2CA58 local0.info mgtransfer: download.txt is opened
2016-09-15T15:12:48+09:00 USDP-B2CA58 local0.info mgtransfer: Delete process start
```

VII-3. 設定

■ VII-3-1. 設定について

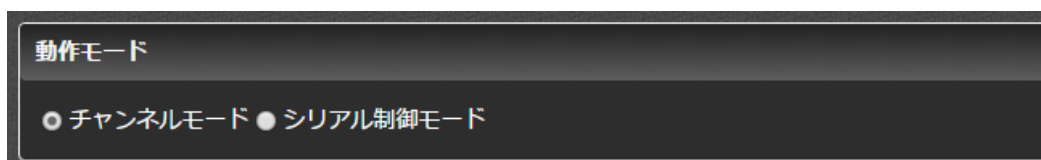
USDP-R2000S の動作を設定により変更します。それぞれのページの[設定]ボタンをクリックすると、実際の設定を行い、設定完了後に再起動が必要な場合には再起動を行います。

設定画面の各項目は、設定したモードによって必要な項目が表示されます。



■ VII-3-2. 基本設定

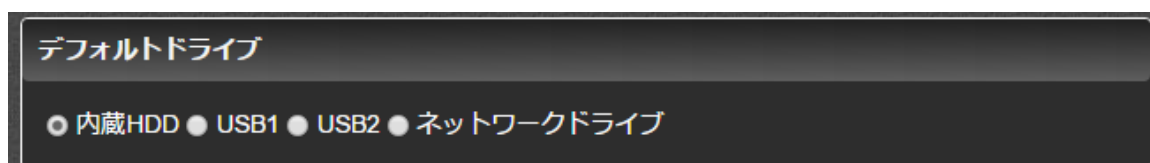
VII-3-2-1. 動作モード



USDP-R2000S はチャンネルモードで動作します。

- チャンネルモード
登録したチャンネル番号から選択する[チャンネルモード](#)で動作します。DCM を使用してスケジュール再生を行う場合には[チャンネルモード]に設定してください。
- シリアル制御モード
シリアルポートまたはネットワークからの制御コマンドによって再生制御を行うシリアル制御モードで動作します。

VII-3-2-2. デフォルトドライブ

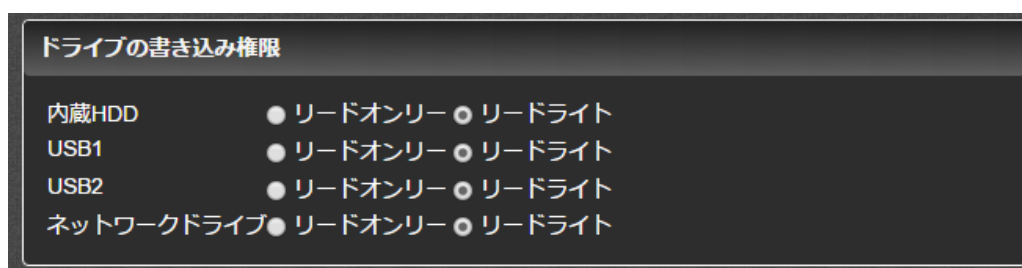


スケジュールファイルとコンテンツファイルを参照するドライブを選択します。DCM ではここで選択したドライブにコンテンツを配信します。

ネットワークドライブを選択した場合には別途[ネットワークドライブ]の設定が必要です。

- 内蔵 HDD
- USB1
- USB2
- ネットワークドライブ

VII-3-2-3. ドライブの書き込み制限



それぞれのドライブに書き込み可能にするか、書き込みを禁止するかを設定します。[リードオンリー]に設定するとファイル配信やその他のすべての操作で書き込みが禁止されます。

- 内蔵 HDD
- USB1
- USB2
- ネットワークドライブ

VII-3-2-4. タイムゾーン



USDP-R2000S を設置する地域の属するタイムゾーンを選択してください。

VII-3-2-5. 時計

時計

時計表示

☐ 有効 ☒ 無効

表示フォーマット

yyyy/MM/dd ddd hh:mm

● 時計表示

画面に時計を表示するかを設定します。

- 有効
- 無効 — (初期値)

● 表示フォーマット

日時の表示形式を設定します。以下の表記の組み合わせで指定します。

初期値は yyyy/MM/dd ddd hh:mm です。

➤ 日付表記

表記	表示
d, dd	日
ddd, dddd	曜日
M, MM	月
MMM, MMMM	月名 (英語)
yy, yyyy	年

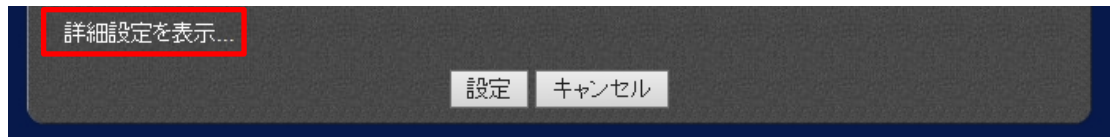
➤ 時間表記

表記	表示
h, hh	時
m, mm	分
s, ss	秒
AP, ap	午前または午後 (英語)

➤ 例

表記	表示
dd.MM.yyyy	21.05.2013
ddd MMMM d yy	Tue May 21 13
hh:mm:ss	14:13:09
h:m:s ap	2:13:9 pm

以下の設定は画面最下端にある「詳細設定を表示...」をクリックすると表示されます。



- デザイン

時計表示のデザインを設定します。

- フォントサイズ

時計表示の文字サイズ(高さ)をピクセル単位で設定します。初期値は 36 ピクセルです。

- 背景色

時計表示領域の背景色を 16 進数の 32 ビット値(AARRGGBB)で指定します。初期値は 90000000 です。

- 文字色

時計表示の文字の色を 16 進数の 24 ビット値(RRGGBB)で指定します。初期値は FFFFFFFF (白)です。

- 文字の縁色

時計表示の文字の縁の色を 16 進数の 24 ビット値(RRGGBB)で指定します。初期値は 000000 (黒)です。

- 文字の縁幅

時計表示の文字の縁の幅をピクセルで指定します。0(なし)から 32 ピクセルの範囲で指定します。初期値は 0 ピクセルで縁は表示されません。

- 位置サイズ

時計の表示位置とサイズを指定します。

- X — (初期値:3100)

時計表示領域の左上の X 座標(0~3840)を指定します。

- Y — (初期値:200)

時計表示領域の左上の Y 座標(0~2159)を指定します。

- 幅 — (初期値:500)

時計表示領域の幅をピクセル(1~3840)で指定します。

- 高さ — (初期値:100)

時計表示領域の高さをピクセル(1~2160)で指定します。

- 詳細設定

- 表示オフセット

現在の日時にオフセット値を加減して、日時を表示します(+の値で進み、-の値で遅れます)。0 秒から±86400 秒(1 日)の範囲で指定できます。初期値は 0 です。

VII-3-2-6. ネットワークドライブ

Windows ファイル共有で共有されているドライブにアクセスする設定を行います。共有されているドライブ、ユーザー名やパスワードについてはネットワーク管理者に確認してください。

- ドライブパス

接続するネットワークドライブのパスを`¥¥server-name¥share`の形式で設定します。

ご注意

ドライブパスはネットワークドライブ側で共有設定されているフォルダーのみ指定できます。共有フォルダーより下層のパス(例:`¥¥server-name¥share¥folder`など)を指定することはできません。

- ユーザー名

公開されているネットワークドライブのユーザー名を設定します。

- パスワード

公開されているネットワークドライブのパスワードを設定します。

VII-3-2-7. UPS

オムロン株式会社製 無停電電源装置(UPS)をUSB ケーブルで接続することで、UPS の AC 入力状態を監視します。UPS の AC 入力が失われ、バッテリー駆動状態になってからの経過時間またはバッテリー残容量により USDP-R2000S をシャットダウンさせることができます。

USDP-R2000S がシャットダウンしてから約 1 分後、UPS 本体がシャットダウンします。

- 動作モード

UPS 監視の動作モードを設定します。

- 無効
UPS に連動してシャットダウンを行いません。(初期値)
 - バッテリー駆動時間
UPS がバッテリー駆動状態になってからの経過時間で USDP-R2000S をシャットダウンします。
 - バッテリー残容量
UPS がバッテリー駆動の状態 で UPS のバッテリー残容量が設定値を下回った場合に USDP-R2000S をシャットダウンします。
- シャットダウンまでのバッテリー駆動時間



動作モード

- ☐ 無効
- ☒ バッテリー駆動時間
- ☐ バッテリー残容量

シャットダウンまでのバッテリー駆動時間

60 秒

UPS がバッテリー駆動状態になってから USDP-R2000S をシャットダウンさせるまでの時間 (秒) を指定します。

- シャットダウンまでのバッテリー残容量



動作モード

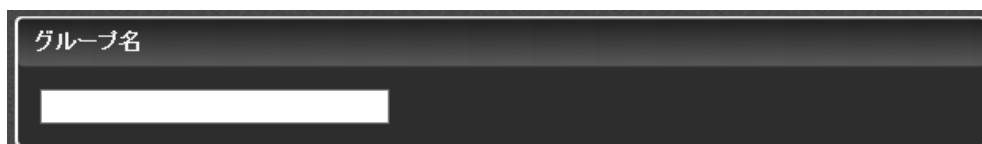
- ☐ 無効
- ☐ バッテリー駆動時間
- ☒ バッテリー残容量

シャットダウンするバッテリー残容量

5 %

USDP-R2000S をシャットダウンさせる UPS のバッテリー残容量 (%) を指定します。

- グループ名



グループ名

1 台の UPS から複数の USDP-R2000S の電源を供給する場合、USB ケーブルで直接 UPS に接続されていない USDP-R2000S を同じグループ名に設定しておく、ネットワーク経由のシャットダウンコマンドにより、同時にシャットダウンさせることができます。グループ名を設定しない場合 (空の場合)、ネットワーク経由でシャットダウンコマンドを送信しません。(初期値)

■ VII-3-3. ネットワーク

VII-3-3-1. IPv6



IPv6 の有効、無効を設定します。通常は有効にしておき、IPv6 を有効にして問題がある環境のみで無効にしてください。

- 有効 — (初期値)
IPv6 を使用します。IPv6 のアドレスは DHCPv6 が有効であれば DHCPv6 から、ネットワーク上に DHCPv6 が存在しなければ自動的に設定します。
- 無効
IPv6 を使用しません。

VII-3-3-2. IPv4

● 有線 LAN

- IPv4 アドレス



IP アドレスの取得方法を設定します。

- ✧ IPv4 アドレスを自動的に取得する(DHCP) — (初期値)
IP アドレスを DHCP サーバーから取得します。割り振られる IP アドレスは DHCP の設定によります。DHCP サーバーから取得できるまでは IP アドレスは割り振られません。
- ✧ IPv4 アドレスを自動的に取得する(AutoIP)
AutoIP を使用して自動的に IP アドレスを割り振ります。AutoIP の範囲内 (169.254/16) で自動生成されます。
- ✧ 次の IP アドレスを使う
使用する IP アドレスを手動で設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ

➤ DNS サーバー



DNSサーバー

現在の値

優先DNSサーバー : 0.0.0.0

代替DNSサーバー : 0.0.0.0

DNSドメイン名 : -

☐ DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する

☒ 次のDNSサーバーのアドレスを使う

優先DNSサーバー : 0.0.0.0

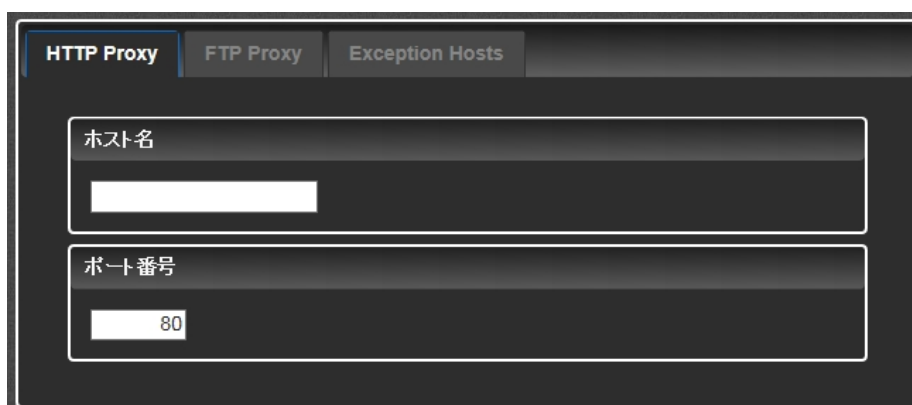
代替DNSサーバー : 0.0.0.0

DNSドメイン名 : localdomain

- ◇ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する
DHCP サーバーから自動的に DNS サーバーアドレスを取得します。
- ◇ 次の DNS サーバーのアドレスを使う
使用する DNS サーバーを設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。
 - 優先 DNS サーバー
優先する DNS サーバーを指定します。
 - 代替 DNS サーバー
優先 DNS サーバーからレスポンスが返らなかった場合に使用する、DNS サーバー指定します。
 - DNS ドメイン名
設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

VII-3-3-3. Proxy

- HTTP Proxy



HTTP Proxy FTP Proxy Exception Hosts

ホスト名

ポート番号

80

HTTP でアクセスする際に Proxy を使用する場合に、Proxy サーバーを指定します。

- ホスト名
- ポート番号

- **FTP Proxy**

FTP でアクセスする際に Proxy を使用する場合に、Proxy サーバーを指定します。

- ホスト名
- ポート番号

- **除外リスト**

Proxy を使用せずに直接アクセスするサーバーのホスト名または IP アドレスを記述します。
複数設定する場合はカンマで区切って指定してください。

VII-3-3-4. ホスト名

- **ホスト名**

USDP-R2000S のホスト名を設定します。

ホスト名に使用できる文字は半角のアルファベットと数字、「-」のみになります。ホスト名を設定しない場合は「USDP-xxxxxx」のように、MAC アドレスから自動的に生成します。

※ ホスト名の先頭と末尾に「-」は使用できません。

- **ホストの説明**

ホスト名と同時に表示される説明を設定します。特に設定する必要はありませんが、接続している機器の数が増えた場合の識別に役立ちます。

VII-3-3-5. NTP



USDP-R2000S 内蔵時計の時刻を補正する NTP サーバーを設定します。 → [時刻設定\(NTP\)](#)

- NTP サーバーのアドレスを自動的に取得する — (初期値)
- 次の NTP サーバーを使う
 - ホスト名

VII-3-3-6. UpnP



USDP-R2000S は UPnP による自動検出に対応しています。 → [UPnP](#)

- 有効 — (初期値)
定期的に UPnP のメッセージをネットワークに通知します。
- 無効
UPnP の通信を行いません。

VII-3-3-7. サービスとの連携

DCM を使用して USDP-R2000S のスケジュール、レイアウト、コンテンツを管理する場合、接続する DCM の設定を行います。

- **連携**

- 有効
- 無効 — (初期値)

- **サービス**

連携するサービスは DCM 固定です。

- DCM

DCM クラウド向けの機能です。Windows 8,10 の 1 台構成の場合は、連携を無効にしてください。

- **DCM サーバー**

サービスで DCM を選択している場合にスケジュールとコンテンツを配信する DCM サーバーのホスト名を設定してください。

- ホスト名
- ポート番号

- **アカウント**

DCM サーバーのアカウントとパスワードを変更している場合に DCM の設定に合わせて設定してください。初期値は DCM の初期値が設定されています。

- ユーザー名
- パスワード

VII-3-3-8. ファイル共有

共有ドライブ 権限		
内蔵HDD	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> リードオンリー <input type="radio"/> リードライト
USB1	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> リードオンリー <input type="radio"/> リードライト
USB2	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> リードオンリー <input type="radio"/> リードライト

Windows ファイル共有で USDP-R2000S のストレージにアクセスする機能を設定します。

→ [ファイル共有](#)

- **有効／無効**

- 有効
- 無効 — (初期値)

- **アカウント**

共有ドライブに接続するアカウントと設定値を設定します。

- ユーザー名 — (初期値: mediaedge)
- パスワード — (初期値: 設定値なし)

- **共有ドライブ権限**

無効に設定すると、そのドライブは共有されません。[リードオンリー]の場合は読み出しのみ、[リードライト]の場合は読み書きが可能になります。[共有ドライブの権限]は[ドライブの書き込み権限]とは別に設定できますが、ドライブが[リードオンリー]の場合に[リードライト]に設定しても書き込みはできません。

- 内蔵 HDD
- USB1
- USB2

VII-3-3-9. 動的コンテンツ

動的コンテンツ

#1 #2 #3 #4 #5

URL

ユーザー名

パスワード

更新間隔 600 sec

動的コンテンツのダウンロード設定は 5 セット設定(#1 ~ #5)することが可能です。

- URL
動的コンテンツダウンロード用の download.txt への URL を指定します。
- ユーザー名
download.txt を取得する為のユーザー名を指定します。
- パスワード
download.txt を取得する為のパスワードを指定します。
- 更新時間
download.txt を取得する間隔を秒で指定します。
#1~#5 のダウンロード処理は同時に行われる為、指定した時間間隔で正確に処理されるわけではありません。

■ VII-3-4. チャンネルモード

チャンネルモードのホームチャンネル[home]に割り当てるコンテンツを指定します。

MEDIAEDGE
VIDEO CASTING SYSTEM
USDP-R2000S
Ver. 2.2.5

状態表示
設定
基本設定
ネットワーク
チャンネルモード

チャンネルモード

番号	タイトル	URLまたはファイルパス	...	リピート
home	RaptorChannel	MEDIAEDGE/_Schedule#scheduleID=home	...	<input checked="" type="checkbox"/>

設定 キャンセル

USDP-R2000S を起動すると[home]に指定したコンテンツが再生されます。

- チャンネル
 - タイトル
チャンネルのタイトルを指定できます。再生中に表示されることはありません。
 - URL またはファイルパス

再生するファイルの URL もしくはファイルパスを指定します。ファイルパスの場合は、[デフォルトドライブ](#)で指定したドライブのトップ階層からの相対パスで指定します。USB1 の content フォルダ下にある sample.m2p を指定する場合、[デフォルトドライブ]を[USB1]に設定した上で [content/sample.m2p]と指定します。[デフォルトドライブ]の設定に関わらずコンテンツを指定する場合は、ファイルパスに[/drives/(ドライブ名)]から始まる絶対パスを記述します。先ほどの例では[/drives/USB1/content/sample.m2p]と指定します。各ドライブのドライブ名は次の通りです。

- 内蔵 HDD : internal_HDD
- USB1 : USB1
- USB2 : USB2
- ネットワークドライブ : network

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているファイル一覧からファイルを選択することも可能です。

➤ **リピート**

コンテンツの再生が終了した時、再生をリピートするかどうかを指定します。ホームチャンネルはリピートが常に有効になっています。

■ VII-3-5. シリアル制御モード

VII-3-5-1. コンテンツドライブ

シリアル制御モードで再生対象とするコンテンツを格納するドライブを指定します。

➤ **デフォルトドライブ** — (初期値)

基本設定の[デフォルトドライブ]で選択したドライブを使用します。

➤ **内蔵 HDD**

内蔵 SSD を使用します。

➤ **USB1**

USB1 に接続したストレージを使用します。

➤ **USB2**

USB2 に接続したストレージを使用します。

➤ **ネットワークドライブ**

基本設定で設定したネットワークドライブを使用します。

VII-3-5-2. コンテンツフォルダーパス

再生対象とするコンテンツを格納するフォルダーのパスを指定します。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているフォルダー一覧からフォルダーを選択することも可能です。

初期値は MEDIAEDGE/_Serial となっています。

VII-3-5-3. ネットワークシリアル制御

- 有効/無効

- 有効

ネットワーク経由でシリアル制御モードの制御コマンドを受け付けます。

- 無効 — (初期値)

ネットワーク経由でシリアル制御モードの制御コマンドを受け付けません。

- 待機ポート番号 — (初期値: 12000)

ネットワーク経由でシリアル制御モードの制御コマンドを受け付ける待機ポート番号を指定します。

VII-3-5-4. 再生開始コマンド(PL)から再生開始までの遅れ — (初期値: 0)

PL コマンドを発行してから再生処理を開始するまでの遅延時間(ミリ秒)を設定できます。

通常は初期値のままで使用します。

■ VII-3-6. 再生

VII-3-6-1. 音声



- 音声出力先

コンテンツ再生時に音声出力するデバイスを設定します。

- analog stereo

前面のアナログオーディオ端子「ラインアウト」から出力されます。

- dp1 stereo

DisplayPort1に接続されたモニターから出力されます。

- dp2 stereo

DisplayPort2 に接続されたモニターから出力されます。

- hdmi stereo

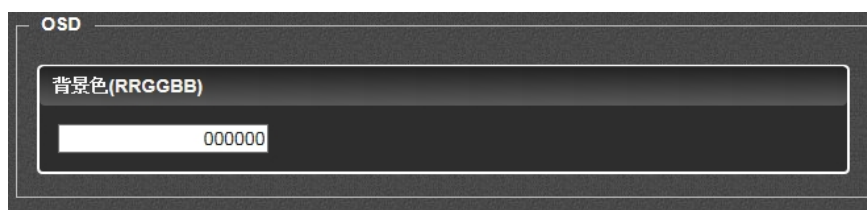
HDMI に接続されたモニターから出力されます。

●音量

コンテンツ再生時の音量を左右それぞれで設定します。

- 50 —（初期値）
音量をそのまま(0dB)出力します。
- 49～1
音量を（設定値－50）[dB] にして出力します。
- 0
消音状態にします。

VII-3-6-2. OSD



● 背景色 (RRGGBB) —（初期値:000000）

コンテンツの再生が停止している状態で表示される OSD の背景色を 16 進数で設定します。
000000（黒）～ ffffff（白）の範囲で指定します。

VII-3-6-3. スケジュール



動作モードによらず、スケジュールファイルにしたがって再生している場合の動作を設定します。

MEDIAEDGE ではフィラーとはスケジュール再生時にエラーが発生した場合に指定されたコンテンツを

自動的に再生する機能を指します。

- **空き時間をエラーとみなす**

- 有効

再生中のスケジュールにコンテンツの登録されていない空き時間があつた場合、エラーとしてフィラー再生を行います。

- 無効 — (初期値)

スケジュールに空き時間があつた場合にエラーとはみなさず、再生を停止します。

- **エラー発生時にフィラーを再生**

- 有効

再生エラーを検出するとフィラーファイルを再生します。

次のスケジュールに移るとフィラーファイルの再生は停止し、スケジュールに従ったファイルを再生します。

- 無効 — (初期値)

フィラー再生を行いません。

- **フィラーファイル — (初期値: 設定値なし)**

再生エラーを検出した場合に再生する、フィラーファイルの URL またはファイルパスを設定します。ファイルパスの場合は、[デフォルトドライブ](#)で指定したドライブのトップ階層からの相対パスで指定します。USB1 の content フォルダ下にある sample.m2p を指定する場合、[デフォルトドライブ]を [USB1]に設定した上で[content/sample.m2p]と指定します。[デフォルトドライブ]の設定に関わらずコンテンツを指定する場合は、[/drives/(ドライブ名)]から始まる絶対パスを記述します。先ほどの例では[/drives/USB1/content/sample.m2p]と指定します。各ドライブのドライブ名は次の通りです。

- 内蔵 HDD : internal_HDD
- USB1 : USB1
- USB2 : USB2
- ネットワークドライブ : network

フィラーファイルにはスケジュール以外の任意のコンテンツ(動画、静止画、HTML、テロップ)を指定できます。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているファイル一覧からファイルを選択することも可能です。

- **スケジュールのオフセット**

DCM で作成したスケジュールに対して、再生やコマンドの実行タイミングを調整するための設定です。

スケジュールした時刻よりも早めに実行したい場合はマイナス、遅めに実行したい場合はプラスの値を -3600000~3600000 (ミリ秒)の範囲で指定します。

※スケジュールの実行時刻をミリ秒の精度で保証するものではありません。

- 再生 — (初期値:0)

コンテンツの再生開始、停止時刻についてのオフセット。

- シリアル出力 — (初期値:0)
スケジュールコマンドの実行時刻についてのオフセット。
- 音量変更 — (初期値:0)
音量変更コマンドの実行時刻についてのオフセット。
- チャンネル変更 — (初期値:0)
チャンネル変更コマンドの実行時刻についてのオフセット。
現バージョンでは「非対応」です。

VII-3-6-4. SMIL

SMIL

モニターサイズに合わせて拡大縮小する

☐ 有効 ☒ 無効

コンテンツのエラーで再生を停止する

☒ 有効 ☐ 無効

コンテンツのエラー時にリトライする

☐ 有効 ☒ 無効

リトライする間隔

10 秒 [1 - 3600]

- モニターサイズに合わせて拡大表示する
 - 有効
モニターサイズとSMILのレイアウトサイズがあていない場合にモニターサイズに調整して表示します。
 - 無効 — (初期値)
SMILのレイアウトサイズで表示します。
- コンテンツのエラーで再生を停止する
 - 有効
SMIL (DCMのプレイリスト)の再生中にエラーが発生すると再生を停止します。(スケジュール再生中だった場合)スケジュールの設定でフィラー再生が有効ならばフィラーが再生されます。
 - 無効 — (初期値)
コンテンツのエラーを無視してSMILの再生を継続します。
- コンテンツのエラー時にリトライする
 - 有効 — (初期値)

(コンテンツのエラーで再生を停止しない設定の場合)エラーが発生したコンテンツの再生をリトライします。

- 無効
- **リトライする間隔** — (初期値:10)
エラーが発生したコンテンツの再生をリトライする間隔(秒)を設定します。
- **レイアウトの変更をチェックする**
 - 有効 — (初期値)
別の SMIL を再生する前にレイアウト変更の有無をチェックします。レイアウトが変更されている場合、切り替えの間に黒が挿入されます。
 - 無効
レイアウト変更の有無をチェックせずに次のコンテンツを再生します。切り替え時に黒は挿入されませんが、切り替えの際に前のコンテンツの一部が混じった絵が表示されることがあります。

VII-3-6-5. フォルダー再生

フォルダー再生

サブフォルダーも再生する

☐ 有効 ☒ 無効

再生する順序

☐ ファイル名の昇順 ☒ ファイル名の降順

再生するファイル数の上限

(0なら制限なし)

再生対象コンテンツ

☒ 動画 ☒ 静止画 ☒ HTML ☐ テロップ

静止画表示時間

秒

HTML表示時間

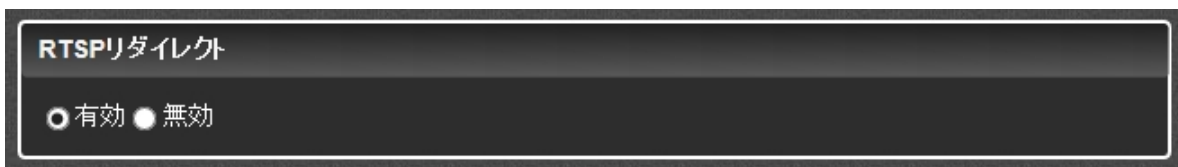
秒

コンテンツとしてフォルダーが指定された場合の再生方法を設定します。

- **サブフォルダーも再生する**
 - 有効 — (初期値)
サブフォルダーないのコンテンツも再生されます。

- 無効
指定されたフォルダー直下のコンテンツのみ再生されます。
- 再生する順序
 - ファイル名の昇順 —（初期値）
 - ファイル名の降順
- 再生するファイル数の上限 —（初期値:0）
フォルダー内のコンテンツファイルを「再生する順序」に従ってソートして、先頭から指定された数だけを再生対象にします。0 が指定された場合は、すべてのコンテンツファイルを対象とします。
- 再生対象コンテンツ —（初期値:テロップ以外のコンテンツにチェック）
再生するコンテンツにチェックをいれます。
- 静止画表示時間 —（初期値:5）
静止画を再生する場合の表示時間(秒)を指定します。
- HTML 表示時間 —（初期値:5）
HTML を再生する場合の表示時間(秒)を指定します。

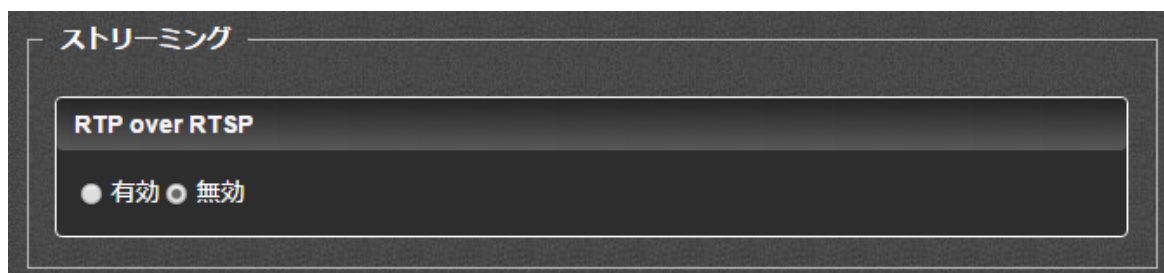
VII-3-6-6. RTSP リダイレクト



外部からの再生制御(RTSP リダイレクト)を有効にします。RTSP サーバーには認証がないため使用しない場合には無効にしておくことを推奨します。

- 有効 —（初期値）
- 無効

VII-3-6-7. ストリーミング



ストリーミング再生の設定を行います。

- RTP over RTSP
ストリーミングサーバーが対応している場合に、RTP over RTSP を使用します。
 - 有効
 - 無効 —（初期値）

■ VII-3-7. シリアル

VII-3-7-1. シリアルポート機能

シリアルポート機能 <input type="radio"/> スケジュールコマンド <input checked="" type="radio"/> 無効
通信速度 <input type="radio"/> 1200 <input type="radio"/> 2400 <input type="radio"/> 4800 <input checked="" type="radio"/> 9600 <input type="radio"/> 19200 <input type="radio"/> 38400 <input type="radio"/> 57600 <input type="radio"/> 115200
データビット長 <input type="radio"/> 7 <input checked="" type="radio"/> 8
パリティ <input type="radio"/> パリティなし <input type="radio"/> 奇数パリティ <input checked="" type="radio"/> 偶数パリティ
ストップビット長 <input checked="" type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2
フロー制御 <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> ソフトウェア (X-ON/X-OFF) <input checked="" type="radio"/> ハードウェア (CTS/RTS)

USDP-R2000S のシリアルポートの使用方法やパラメーターを選択します。

● シリアルポート機能

シリアルポート機能 <input type="radio"/> リモートシリアル <input type="radio"/> スケジュールコマンド <input type="radio"/> シリアル制御 <input checked="" type="radio"/> 無効

- リモートシリアル
リモートシリアルモードで使⽤します。
- スケジュールコマンド
スケジュールファイルに記述したシリアルコマンドを、スケジュールにしたがって出力します。
- シリアル制御
シリアル制御モードで使⽤します。
- 無効 — (初期値)
シリアルポートを使⽤しません。

- 通信パラメーター

通信速度
<input type="radio"/> 1200 <input type="radio"/> 2400 <input type="radio"/> 4800 <input type="radio"/> 9600 <input type="radio"/> 19200 <input type="radio"/> 38400 <input type="radio"/> 57600 <input checked="" type="radio"/> 115200
データビット長
<input type="radio"/> 7 <input checked="" type="radio"/> 8
パリティ
<input type="radio"/> パリティなし <input type="radio"/> 奇数パリティ <input checked="" type="radio"/> 偶数パリティ
ストップビット長
<input type="radio"/> 1 <input checked="" type="radio"/> 2
フロー制御
<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> ソフトウェア (X-ON/X-OFF) <input checked="" type="radio"/> ハードウェア (CTS/RTS)

以下の通信パラメーターを接続する機器に合わせて設定します。

- 通信速度
- データビット長
- パリティ
- ストップビット長
- フロー制御

VII-3-7-2. リモートシリアル

リモートシリアル

接続モード

☒ 連動(ストリームサーバー)
☐ 固定接続
☐ サーバー動作

接続先ポート番号

60001

待機ポート番号

60001

- **接続モード**

ネットワーク上の中継先との接続方法を指定します。

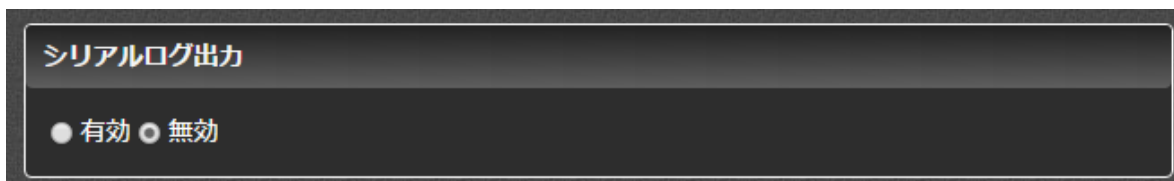
- 連動(ストリームサーバー) — (初期値)
ストリーミング再生中の MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB などに接続します(TCP 接続のみ)。ストリーミング再生を停止すると接続が切断されます。
- 固定接続
起動時に[接続先]に設定したアドレスのサーバーと接続します。
- サーバー動作
ホストコンピューターからの接続を待ち受け、サーバーとして動作します(TCP 接続のみ)。

- **接続パラメーター**

以下の接続パラメーターをリモート接続する機器に合わせて設定します。

- 接続先ポート番号 — (初期値:60001)
シリアルポートから入力した通信をネットワークへ送信するためのポート番号を指定します。
- 待機ポート番号 — (初期値:60001)
シリアルポートへ出力する通信をネットワークから受信するためのポート番号を指定します。
ポート番号は任意ですが、他の通信で使用している番号と同じ番号は使用できません。
- プロトコル
接続モードが固定接続の場合のみ選択できます。接続先が使用するプロトコルと同じ値を設定します。
 - ◇ TCP
 - ◇ UDP — (初期値)

VII-3-7-3. シリアルログ出力




リモートシリアルでの通信をログに出力するかを設定します。

- 有効
シリアル通信の内容を動作ログに出力します。
- 無効 — (初期値)
シリアル通信の内容は動作ログに出力しません。
異常などがあった場合には、[無効]に設定されていてもエラーログには出力される場合があります。

■ VII-3-8. ビデオ出力

VII-3-8-1. モニター



DisplayPort に接続するモニター出力の設定を行います。

- レイアウト



DisplayPort で接続されたモニターのレイアウト設定を行います

- シングル

DisplayPort に接続されているモニターの1つを使用してビデオ出力します。

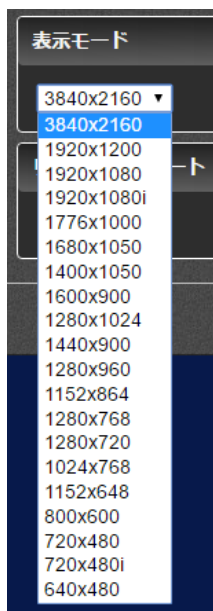
- マルチ縦

複数接続されているモニターを縦に並べたレイアウトを構成します。

- マルチ横

複数接続されているモニターを横に並べたレイアウトを構成します。

- 表示モード



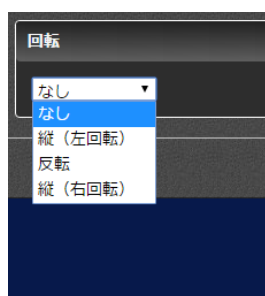
各モニターの表示解像度を指定します。

- リフレッシュレート



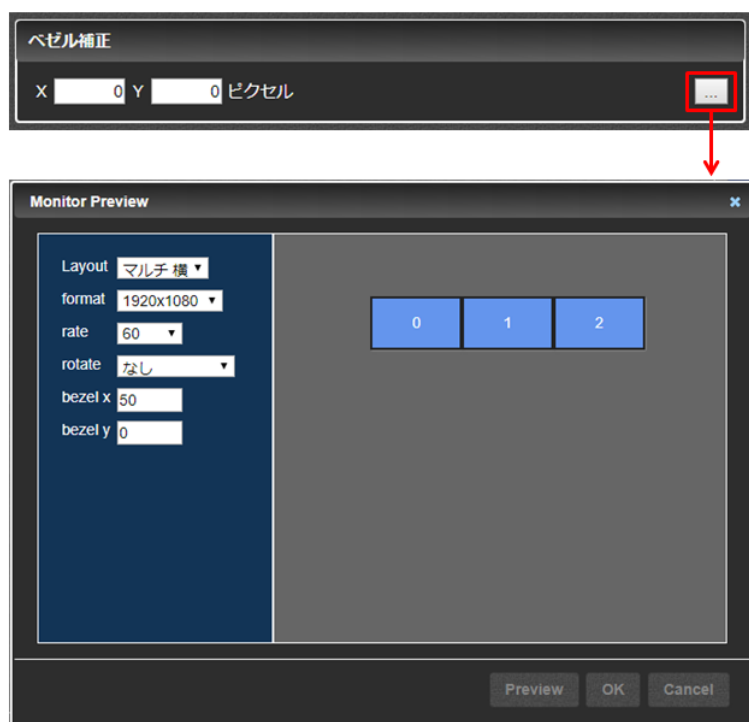
各モニターのリフレッシュレートを設定します。モニターが対応していない場合、任意の設定が行われます。

- 回転



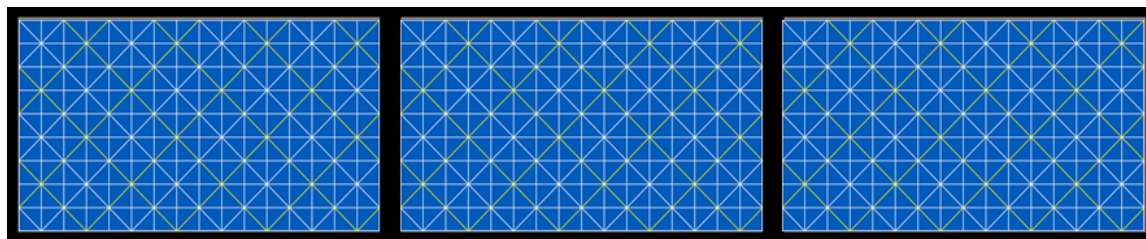
各モニターの回転方向を設定します。

- ベゼル補正



マルチモニター構成時のベゼル補正值(ピクセル単位)を設定します。

右端のプレビューボタンを押すと画面に格子柄が表示されますので、斜めの線のつながりを目安にベゼル補正值を入力調整します。



VII-4. 機器管理

■ VII-4-1. ストレージ管理

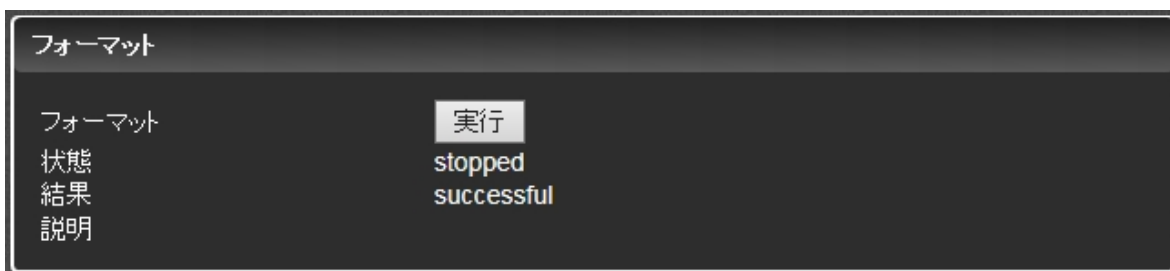
ドライブ選択



フォーマットやエラーチェックを行うドライブの選択を行います(内蔵 HDD のみが選択できます)。

ドライブのステータスが "none" になっている場合、内蔵 SSD が正常に認識されていません。
後述のドライブチェックまたはフォーマットを実行してください。

フォーマット



選択したドライブのフォーマットを行います。

フォーマットを実行すると、ドライブに記録したすべてのデータが削除されます。

ドライブチェック



選択したドライブのチェックと異常があった場合に修復を行います。

ドライブチェックを実行してもドライブの異常が修復されない場合には、フォーマットを行ってください。

ドライブの異常が修復されない場合は、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

■ VII-4-2. 再起動・シャットダウン

再起動	実行
シャットダウン	実行

USDP-R2000S の再起動およびシャットダウンを行います。

■ VII-4-3. 初期化

設定初期化	実行
ログ初期化	実行

設定初期化

システムを工場出荷時の設定に戻します。設定を行う場合、[実行]ボタンをクリックしてください。再起動が必要な設定値を初期化する場合、USDP-R2000S は自動的に再起動します。

ログ初期化

ログは内蔵 SSD に記録され電源を切っても保持されます(一定量より古いログは順次削除されます)。[実行]ボタンをクリックすると記録されている全てのログが初期化されます。

通常はログ初期化を行う必要はありません。

■ VII-4-4. 一括設定

一括設定ファイル名	参照...
実行	キャンセル

[システム管理]→[情報の取得]画面で[設定値の取得]を実行して得られる設定値ファイルを編集して指定することで、設定値を一括して書き込むことができます。再起動が必要な設定値を書き換える場合、USDP-R2000S は自動的に再起動します。

一括設定ファイル名の[ファイルの選択]をクリックし、一括設定ファイルを指定して[実行]ボタンを押してください。

■ VII-4-5. 日時設定

日時の設定を行います。

USDP-R2000S のあるローカル時間を設定してください。

[更新]ボタンを押したタイミングで USDP-R2000S の時計が更新されます。

タイムゾーンの設定は[基本設定](#)から行ってください。

NTP による時刻の自動設定を行なっている場合は、ネットワークで時刻は自動的に補正されます。NTP が使用できない環境では定期的に時刻の設定を行なってください。

[PC の時計に同期する]のチェックボックスをチェックすると操作している PC の時刻が自動的にセットされます。

タイムゾーンの設定に関係なく PC の時刻が設定されます。

■ VII-4-6. 情報の取得

設定値の取得

MEDIAEDGE USDP-R2000S の設定値をテキストファイルで取得します。

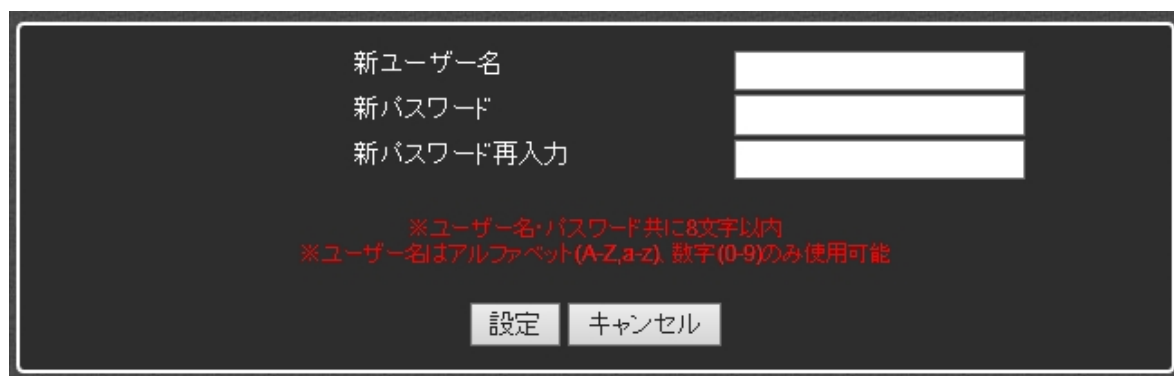
このファイルは設定値のバックアップや、一部を変更して Web コンソールの一括設定で使します。

ログの取得

USDP-R2000S のシステムログをファイル (ZIP 形式で圧縮されています) として取得します。

取得したログファイルは不具合などの解析のために使します。不具合などのお問い合わせの際には取得したログファイルを当社カスタマーサポートまでお送りください。

■ VII-4-7. ユーザー名・パスワード変更



新ユーザー名

新パスワード

新パスワード再入力

※ユーザー名・パスワード共に8文字以内
※ユーザー名はアルファベット(A-Z,a-z) 数字(0-9)のみ使用可能

設定 キャンセル

ユーザー名・パスワードを変更します。変更を行う場合、ユーザー名とパスワードを入力し、[設定]ボタンをクリックしてください。

ここで設定したユーザー名とパスワードは Web コンソールへのログインで使用します。

新ユーザー名	新たに登録するユーザー名を入力します。
新パスワード	新たに登録するパスワードを入力します。
新パスワードの再入力	新たに登録するパスワードを再入力します。

初期値

ユーザー名の初期値は[admin]に、パスワードは設定されていません。

VIII. Appendix

VIII-1. 更新制御スクリプト

■ VIII-1-1. 概要

USB ストレージに更新すべきファイルと更新制御スクリプトを入れておき、USDP-R2000S の USB1 に接続することで、コンテンツの更新、設定値の更新を行うことができます。

ルートフォルダーに update.inst または[ホスト名].update.inst という名称のファイルが存在すると更新制御スクリプトとして認識します。(ホスト名の初期値は「USDP-xxxxxx」のように、MAC アドレスから自動的に生成された名称です。)

■ VIII-1-2. 書式

1 行目には#!UPDATE と記述します。この行があることで更新制御スクリプトと認識します。

2 行目以降にはコマンドを指定します。コマンドを複数指定できます。

指定可能なコマンドを以下に示します。

コマンド	説明
add_contents	コンテンツをデフォルトドライブにコピーする
set_config	設定値を更新する
save_log	システムログをファイル(ZIP 形式)として保存する

VIII-1-2-1. add_contents

```
add_contents [-b] [-d] フォルダー1 [フォルダー2]
```

- コンテンツをデフォルトドライブにコピーします。
- [更新元ドライブ]¥[フォルダー1]の下にあるファイルを、[デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE¥[フォルダー2] に上書きコピーします。[フォルダー2] を省略すると[デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE に上書きコピーします。
- [フォルダー1]に . (ドット) を指定すると、[更新元ドライブ]のルートフォルダー以下にあるファイルを [デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE¥[フォルダー2]に上書きコピーします。
- デフォルトではコンテンツを更新する前にコンテンツの再生を停止しますが、-b オプションが指定された場合は、再生を継続したままコンテンツを更新します。
- -d オプション(省略可能)が指定された場合は、[デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE¥[フォルダー2] 以下にあって[更新元ドライブ]¥[フォルダー1] にないファイルを先に削除してから上書きコピーを行います。

VIII-1-2-2. set_config

```
set_config 設定値ファイル
```

- [設定値ファイル]をもとに設定値を更新します。
- [設定値ファイル]は Web コンソールの[情報の取得](#)ページの設定値の取得を実行することで取得できます。

VIII-1-2-3. save_log

```
save_log
```

- Web コンソールの[ログの取得](#)と同様のシステムログファイル (ZIP 形式で圧縮されています) を USB ストレージのルートフォルダーに保存します。

■ VIII-1-3. 記述例

USB ストレージの¥newcontents フォルダーを USDP-R2000S のデフォルトドライブの MEDIAEDGE フォルダー以下にコピーします。

```
#!UPDATE  
add_contents newcontents
```

設定値を settings.txt で更新します。

```
#!UPDATE  
set_config settings.txt
```

VIII-2. 無停電電源装置について

動作確認済み UPS

USDP-R2000S はオムロン株式会社製 UPS と接続することができます。

次の UPS での動作を確認しています。

- オムロン株式会社製 BX35F
- オムロン株式会社製 BY35S
- オムロン株式会社製 BN150XR

すべてのオムロン株式会社製 UPS での動作を保証するものではありません。

UPS との接続

- USDP-R2000S の背面部にある USB 端子と UPS を USB ケーブルで接続します。
 - どの USB 端子に接続しても動作します。
 - USB ハブ経由での UPS の接続、および複数の UPS の接続を行った場合は動作保証外となります。
- 1 台の UPS から複数の USDP-R2000S へ電源を供給する場合、USB ケーブルで直接 UPS に接続されていない USDP-R2000S を同じグループ名に設定しておく、ネットワーク経由のシャットダウンコマンドにより、同時にシャットダウンさせることができます。この場合、これらの USDP-R2000S を同一のネットワークに接続します。

VIII-3. 仕様

■ VIII-3-1. 再生可能なコンテンツ

動画	<p>H.264 もしくは MPEG-2 で圧縮された動画ファイルの再生に対応。 (再生可能なファイルは、同時に再生するコンテンツやその他の条件によって制限が変わります)</p> <p>MPEG-4 AVC / H.264 (ITU-T Rec. H.264) 最大解像度: 3840x2160 最大ビットレート: 100Mbps 最大フレームレート: 60p 色空間: 4:2:0 色深度: 8bit ファイル形式: m2ts, mts, mp4, mov</p> <p>MPEG-2 (ISO/IEC 13818-2) 最大プロファイルレベル: MP@HL 最大解像度: 1920x1080 最大ビットレート: 35Mbps ファイル形式: mpg, m2p, m2t</p>
音声 (動画に含まれる 音声形式)	<p>MPEG-1 Audio Layer1, Layer2 (ISO/IEC 11172-3) MPEG-2/4 AAC-LC (1~2ch) PCM</p>
静止画	<p>静止画を任意の範囲に拡大、縮小して表示可能。 JPEG (Exif) PNG GIF (アニメーション GIF には対応していません) BMP 拡張子 jpg, jpeg, png, gif, bmp</p>
HTML	<p>HTML5 に対応したブラウザを搭載。 (HTML5 のすべてのページが正しく表示できることを保証するものではありません) 拡張子 html, htm, asp</p>
テロップ	<p>日本語、英語に対応したテロップの表示が可能。テロップは文字と背景の色、文字サイズ、スクロール速度が設定可能。 RSS テキスト(文字コードは UTF-8 または Shift JIS) 拡張子 text, txt, rss, xml, rdf</p>
SMIL	<p>「Display Content Manager」(別売り、以下 DCM と表記)を使用して作成されたプレイリスト(SMIL2.0 のサブセット)の再生に対応。 拡張子 smil, smi, sml</p>

■ VIII-3-2. ハードウェア仕様

サイズ	
外形サイズ	175(W) × 119.3(D) × 32.1(H) mm ※突起物は含まず 付属のケースマウントブラケット装着時、高さ(H)は約 10mm 増えます。
質量	約 1.2Kg (AC アダプターを除く)

定格		
電源電圧	AC アダプター	入力: AC 100V～240V (50Hz/60Hz) 出力: DC 12V 5.0A (max)
	本体	入力: DC 12V 5.0A (max)
	最大消費電力	通常動作時: 60W
温度条件	動作温度範囲	0～45℃
湿度条件	動作湿度範囲	5%～90%RH(結露しないこと)
動作姿勢	水平	
RoHS	対応	

記録領域	
内蔵 SSD	コンテンツ登録用として使用可能領域 約 180GB 8Mbps の場合 約 46 時間の動画コンテンツを登録可能

ネットワーク		
LAN ポート	形式	100Base-TX、1000Base-T Ethernet／IEEE802.3 フレーム形式に準拠
	端子	RJ45 モジュラーコネクタ×2

映像音声		
映像出力	端子	HDMI × 1、DisplayPort × 2
音声出力	端子	HDMI、DisplayPort に重畳 ステレオミニジャック

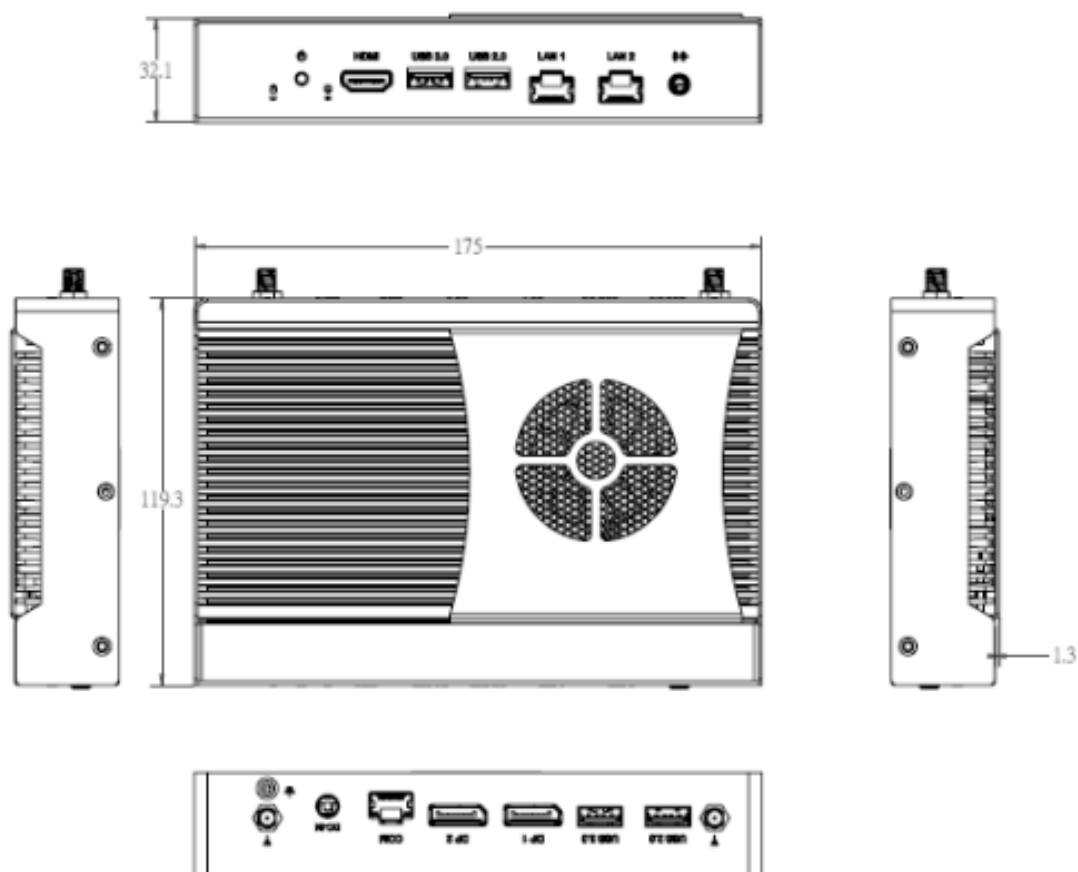
汎用入出力		
シリアルポート	形式	RS-232C
	端子	RJ45 モジュラーコネクタ×1
USB ポート(前面)	形式	USB 2.0 準拠 / USB 3.0 準拠
	端子	USB Type A × 1 / USB Type A × 1
USB ポート(背面)	形式	USB 2.0 準拠 / USB 3.0 準拠
	端子	USB Type A × 1 / USB Type A × 1

■ VIII-3-3. 外観、サイズ

USDP-R2000S 本体

175(W) × 119.3(D) × 32.1(H) mm ※突起物は含まず

ケースマウントブラケット装着時、高さ(H)は約 10mm 増えます。



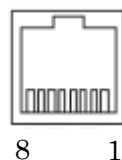
※ 本体サイズに加えて上面に 50mm、背面に 50mm 以上空間を空けて設置してください。

■ VIII-3-4. コネクタピン配置

100Base-TX/1000Base-T Ethernet (LAN)

RJ45

Pin#	Signal Name
1	Tx_D1+
2	Tx_D1-
3	Rx_D2+
4	BI_D3+
5	BI_D3-
6	Rx_D2-
7	BI_D4+
8	BI_D4-



RS-232C

RJ45

Pin#	信号名	入出力
1	RTS	OUT
2	DTR	OUT
3	TXD	OUT
4	GND	---
5	GND	---
6	RXD	IN
7	DSR	IN
8	CTS	IN

